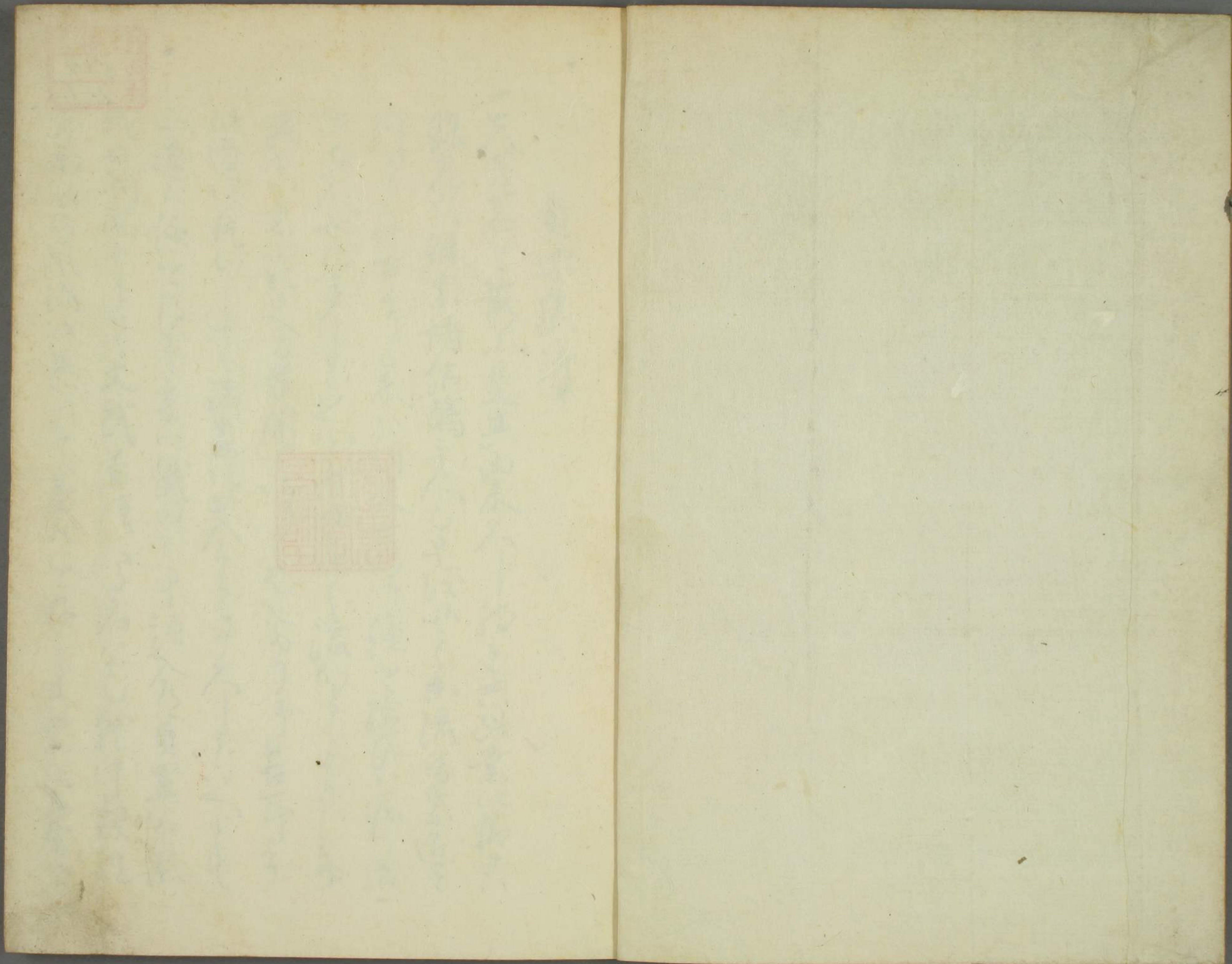


貞要集

一之上

759  
629  
/







貞要集序

一 夫芳名を被ふ其由未だ一物を共此業に被ふ  
殊光宗殊宗悟紹臨上人の是は此の末流有宗道と  
仰より中古より以来の利休古田の種を拾ひい流の流  
を海人せに多しとて其源を流の流を多しとて  
其意をわたりて者聞しつりて之をわたり予若斗たり  
此道に執心して諸家に出入るる者なりとて  
此道の流をばりて其意に織因を中流に貞置公業  
代の成割よりして文武兼修なる名公に就中頼朝  
有宗公の風流は慕ひて茶名を好し其業に為る也



成乾ぞんしきすくせ給り誠よま年の乳母一思り  
同るあしきしりらにたひく約し多し母に  
柳子孫ははこむくしきぬしりくみ供の爲に  
まかりし給り

壘子起

一壘子の起り、筑州崇福寺の岡山南浦紹明和尚入  
唐一福朝の付始り、壘子一携来りしなり、又より  
紫の大徳寺にけしきり、之後尊代將軍の所時代た死  
寺岡山多窓國師築山泉水造小寺の作りを營  
壘子その茶會を執りしきし、しや以時より居る  
湖へせに行き、武家より茶亭作りを存入、當院  
よりより壘子に家も居るなり、りて慈照院義政  
公の時迄、壘子の茶式は、返りしきし、頭名をい  
茶々たる集り、茶道の法式、右物の茶器を注儀し

終る不中より南都祇園院の住僧保光之茶乃亦其  
自得融通の事なりしを記して能く得相の法を合  
尊者長筵茶入尊者目の茶式を定むるなり尊者  
の法式の後世に傳はり唐より傳はる風煙釜の法  
代イカヅキ昆布の釜銅の爐成りて味光初イカヅキの風煙を既  
と羽釜と違ふ所なり尊者の茶湯の用はこれ  
に類する風煙は月ひきと徳信の茶湯の用は此  
源より始まるなり今の茶風煙也

織田氏壘子傳末

一太閤秀吉公の尊者の茶式は傳へり古公法秘傳と  
利休は擔詞を以て私小地への傳授は皆由仰付ん  
尊者の傳授は秀吉公法也の相傳存すといふ所也  
傳り衆い先關白宗次公蒲生の郷細川三齋亦村  
左衛門守山右近瀬田掃部一芝山並物七人の後  
織田有楽公執事多利公法也有樂は年外教多功  
者多利の利休也傳へり旨上意多し秀吉公法也和り  
切あり利休也に傳へり旨上意多し有楽は古七人の  
外也其の法也の利休也の旨上意多し有楽は古七人の  
旨上意多し有楽は古七人の旨上意多し有楽は古七人の  
尊者の法也の旨上意多し有楽は古七人の旨上意多し有楽は古七人の

すまひのり利休の茶にきくは侍の秋夏語りん  
也く茶道に大受の習ふてふてふにふり一皆自の  
作意機轉のふり習ひの習ひては侍の極意とてふは  
くすす一誠の茶道の名言し

一有樂のり覺子傳来の痛強織田三六守長好のり若  
成一は言橋玄且とくは茶のり所傳授をて後之  
の常なる長年一ふり下向の常一供は下りる  
子の秘り棄一有樂公の遺之の通一の常なる  
侍くすす一我は且一え堺の圓寺の信傳成一の  
子来和休の通向のり茶道はのり一業にふりたる

はに有樂公の古き茶道一は茶道一はのり常  
なり有樂公の覺子は後りの通しは且存余のり  
其佳に同依せりとも京のりて一祇園は且とて  
人皆さふりては覺子の傳多一は織田家の  
傳授由緒は一はのり一大明一真行草は是  
別は一は運の茶の湯はとては在りて合ふ  
取事のとてはとてはかり茶茶活法集二帳は古之  
玄且傳せり別は茶道は傳集十卷をり是は茶原  
傳傳集とてはふり玄且の傳とてははるを  
石の二卷をすけ一は南流は用ひる受は

有り是に在りて改て貞公の書信を善ぶるを

茶道可嗜事

一 凡茶の湯興行の貞公常小宣るい茶の醒賢の  
名教業の佛教のわが又天下の大法を著し  
唯朋友の文りて歎は合するはの更也い古今の執  
行する法式を合せ習時の教りて興行の法を  
しゆをいより何るに之をいふは工夫あり  
の合とも不安心の成振ふ有度者しと法儀し  
給り也一て茶の湯の人の教りてをいふは  
意の江方けの管ぬをいふは客亭まはに能

慎く不化法成更勢の有すこと殊小人の茶の  
湯も違ふも我覚たる流義にまひかゝる更を求  
て朝人の不切りなや湯り笑ふい以外の不禮しを  
茶會と催しおを法にに自代るふ茶のりな  
敷の掃除當りてへ會席の更に至るは随ふん  
まじく精誠を意に更おふはの得るをいふ  
流傍する者い却て其方の茶を不性もいふ  
悪ふはていふ茶の師といはれ我記を改め人の  
目にあはれ給ふ湯りては貞公常小宣るは  
初式と之をいふ



此のほゆるは茶の作りの家なり大宅と  
出の道なれや茶の作りの緑花の紅

茶道のりなりこのほゆるは茶の作りの家なり大宅と  
出の道なれや茶の作りの緑花の紅

宇治茶園濫觴

凡称宇治茶者本出自建仁崇西禪師本朝仁安三  
年之夏四月入南宋發四明登台嶺路山其貴重之  
而大有藥驗秋九月歸撤之遂齋持若實數顆移植

久世之郡宇治縣以其地神靈肥饒宛似建溪惠山  
有風水利故播殖之者歟爾後國朝之官民無大無  
小無不珍愛之近代嗜茶者以宇治為第一柁山次  
之且諺云至宇治茶有清音餘皆濁音也有茶之別  
称曰無上曰別儀曰極無其餘不遑枚舉焉奇哉明  
菴西公喫茶記明示来世病相畱賜后昆以要令知  
是養生之藥仙有延齡妙術也矣於是乎跋

右茶園濫觴の記建仁寺小住の書字なり

茶製様之夏并七種名園

一唐子行建溪惠山の茶の名不詳なり此園より採り

山城國久世郡宇治に彼る池ありて、中宗西禪師  
始て茶の種を植て代りゆり、永らく三月廿一日に  
茶は摘みゆりて、廿一日の文字を結ひて昔より  
名記り、御茶酒肉の毒を解し、胸膈を清淨なりと  
不充不欠の妙功有ゆ、異國より書り珍重を蒙りし  
鎌倉實朝公若酒少く煩ひ給ひし、小宗西茶を進すと  
し、忽ち快き由既り、東過ふとて、後後馬  
羽院隠岐の國小歩出を、時魚毒に解て給ひしに、濃  
茶と名し、一解し、永く傳ひて、今も、以来  
禁裏より公方、成元日の大徳中、茶を上奉り、今の世

近し世、茶の御美なり、お茶も極上の儀、極  
別儀、極の名品なり、ゆり、極好む時、生葉の種を、真  
なり、鷹の爪とし、名付、御美紅葉、此の品を撰ひて  
煮茶ゆり、徳えのよ、好む極とて、定の御葉、此の  
や、取分け、別儀なり、又極上の御の中より、極  
極、別儀、極と極、此の古来より、其の製法、紹興  
及、沸茶を止め、煮茶の制法より、茶易し、煮茶  
の風味、ゆり、ゆり、好む、古儀、好む、茶を好む、  
風味の吟味、ゆり、ゆり、只、此の第一は、立、  
吟、遠州公、又、煮茶、ゆり、ゆり、白茶、ゆり、ゆり、  
ゆり、

之類よりいへば茶園のありきありし後善と云ふも  
二月やうり茶は酒行ふにやれ復た取捨を二葉四葉  
の四葉摘みしに製法なりぬ茶の法はた金り  
丸籠をなす茶葉を二葉摘み入るにやれ後時  
計きはあつて振敷つらうり十とこの内少くも年の  
風味を学試て幾つと較べて定めて蒸上げ焙煎を  
入はするにやれ一摘旬分二葉煎減じ九茶の味は  
あつた物りたは之来木の葉の味は苦からく  
淡苦離るるに味味潤く香りのるも白を極  
無上と云ふより以下はあつた味を試て然るにつら

袋茶に極るる昔の茶は試るに濃と好む茶碗り  
粘り程に潤るるを遠州公より始り清く潤るる  
近代牧野の江戸を祝成公の白濁の河津茶の味は丸  
茶は毎度茶碗りて右茶の河津茶興馬合病  
物と定むれば茶を女に水試る女と極るははく極く  
清く成るるにやれ常世極るる古の茶り今も極るる儀  
其外の品にし園茶定むる茶の仕立を右列し古来製  
茶は百女は一斤と定ぬ夫を十にわくは極るるにやれ  
と云ふは極るるにやれ中源よりまじりては極るるに  
極るるにやれは極るるにやれは極るるにやれは極るるに



休弟子 珠光 珠光弟子 宗珠 南无住 宗悟 大林弟子 紹鷗

公野 傳 弟 子 仲 村 古溪弟子 宗易 千与四郎 卜 号 利休 春屋弟子 宗庵

古田 織部 一 主 勝 江月弟子 宗甫 小海 遠 江 号 一 出雲号 傳 一

金森宗和 織部弟子 佐内 将監 上 日 所 造 安 弟 子 一 不 一

栗山几道 栗山几道弟子 多 笑 几 道 上 日 所 入 片 桐 石 見 号

远州弟子 舟 敏 行 德 号 細川 三 高 傳 一 尾 津 織 鉄 号

天 王 寺 号 宗 及 納 戶 宗 久

紹 鷗 利 休 弟 子 傳 住 道 珍

宗 瓜

珠光 几 道

古市 播磨 号 志野 宗 温 号 松本 宗 貞

針 尾 宗 真 鷗 号 宗 觀 南 防 宗 啓

利休 子

千道 安 同 少 安 後 少 庵 共 宗 旦

少安 子 同 宗 旦

宗 佐 宗 室 宗 守



一 爐 童子長板右勝 真行草之反

一 袋 棚庄合茶道 和之反

附草司茶道 和之反

一 中央 阜茶之湯 之反

附香煙 灰押 和之反

一 道 寺置合茶 之反

附繪圖 之反

一 盆 不載唐物 且之反

一 茶 八茶碗 入在合茶 且前之反

一 茶 挿相茶 且前之反

此の如き手前茶道定法は、  
の奥儀に極意を末に書記し、  
道より古実の具の童子より、  
後より真汲取し、末に草の湯、  
繪圖の事

此の如き手前茶道定法は、  
の奥儀に極意を末に書記し、  
道より古実の具の童子より、  
後より真汲取し、末に草の湯、  
繪圖の事

貞要集一之上

一真童子之夏

一童子長盃茶入盃天目一庄往古有之惟此茶調飲區  
少々茶道前不徳和ふ奈更の秘名寺住僧珠光童子  
七在少々茶洞秋夫緋練と東山義政公一石出於  
市茶茶道は夫より代々小童子の茶の師中流の伝承  
利休より少許ありて傳へ奥に茶道前記をこ

一童子の盃杯は乃果冬に向四余寸近間を以左右の  
盃中に茶の容付の万舞の丸目せり柳小盃にたり方り  
風がやむ風杯の深付と童子の杯と之通一柳小盃に

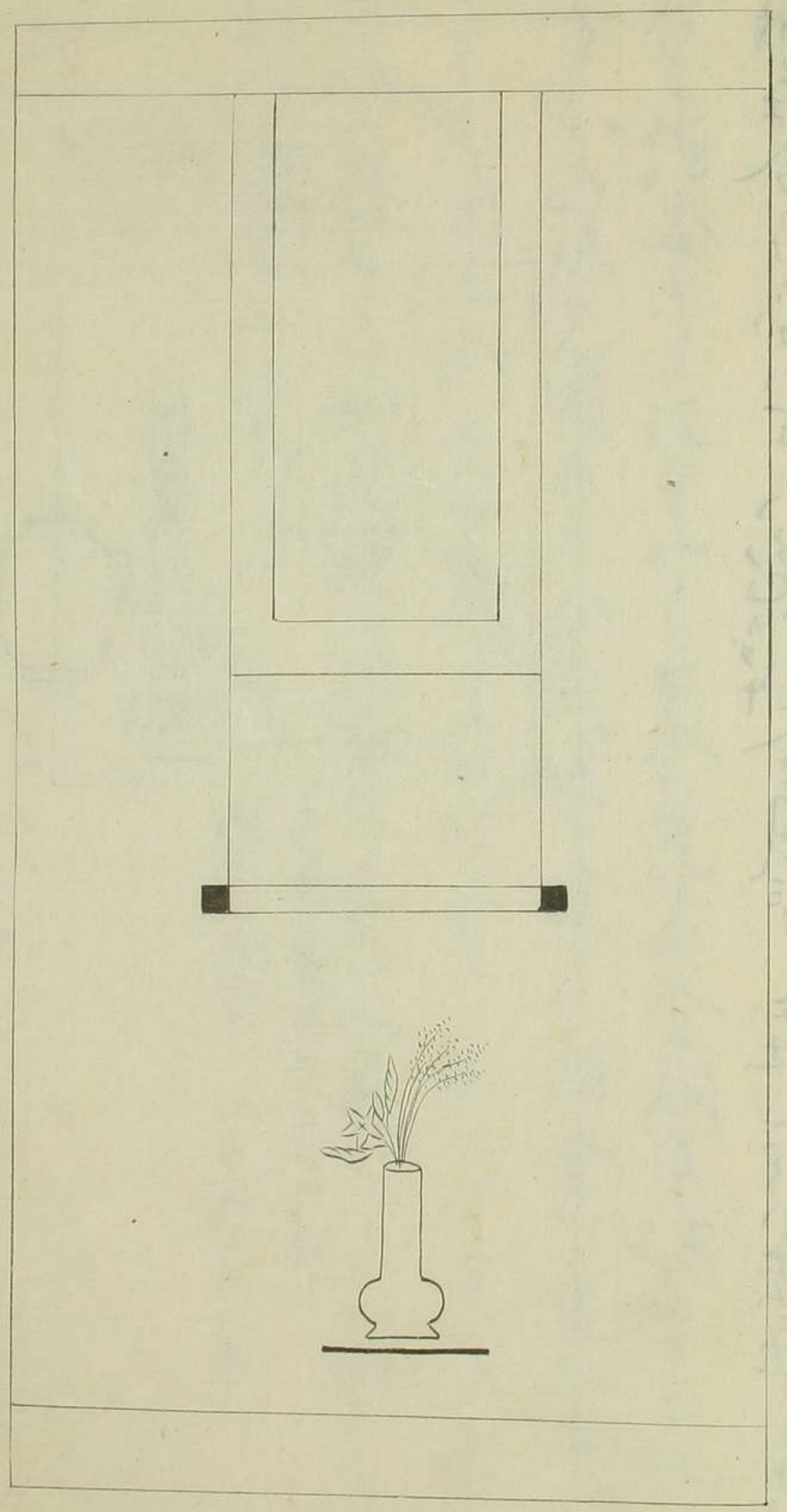
又盃の盃杯除ふ盃は乃見合るし盃の盃大ふ小ありし  
是存ありし水指を盃は乃見合るし水指の柳小盃に  
童子の真中向い丙夕立い盃金の火茶丙夕と立候と  
盃丙夕立り度小い薄紙を敷は乃成り小成り好候と  
更し丙夕立の茶に水覆を盃を後り内小盃を盃に合  
是は深候ありし心通童子に水指丙夕立水覆風杯  
盃合とくや見合行りてを柳小盃合とて更分りし  
金の風杯の深水指の深尺右上下し是は籠茶盃に  
合候し

一上の架りし童子の茶入袋ふ入天目袋ふ入但毛緒し両杯と



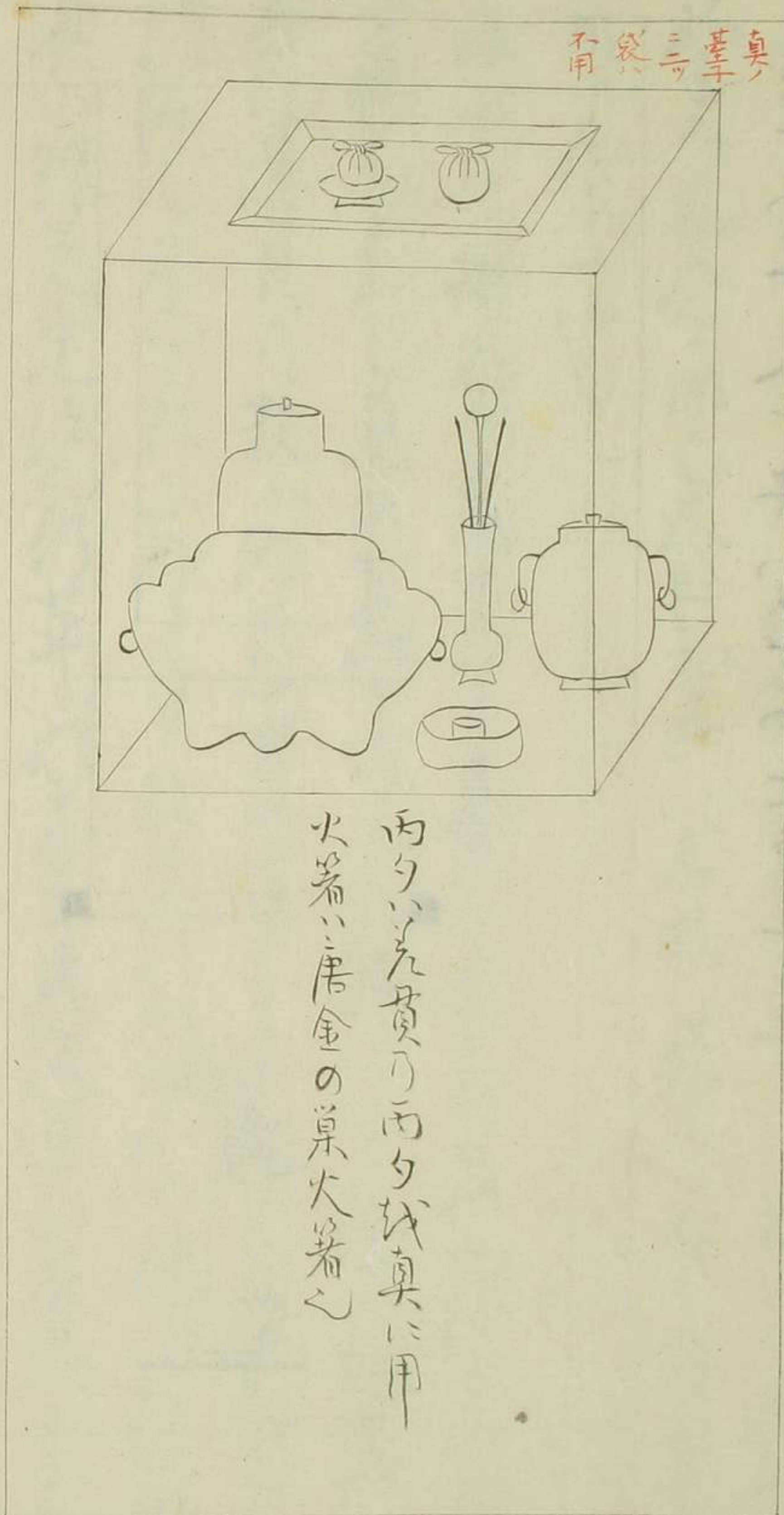
長盆の凡右に茶入を置き茶子付其の中におく昔より茶子の唐物  
 茶子の茶入を用ひ天目茶共におく名物の茶入は右の方茶天  
 目い庄おせはし

一床少く掛物と花生や茶子上下の庄の種といふ  
 七種といふと真の七種といふ物一と茶の種は  
 共に道具の教おのれ一坐の事と定るは珠光より  
 けはし茶の教おのれ一坐の事と定るは珠光より  
 真の珠光定法は草子茶子長板運ひ茶湯の  
 定法は定法をちりて道具の教と定りて伊原  
 り別 陰圖に記す



真の茶子床二庄茶子の茶子七種

竹莊合乃品い古来寛<sup>カ</sup>系<sup>キ</sup>金<sup>キ</sup>洞<sup>トウ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>毛<sup>モウ</sup>莊<sup>シヤウ</sup>今<sup>イマ</sup>唐<sup>カウ</sup>座<sup>ザ</sup>用<sup>ヨウ</sup>



丙夕い差貫り丙夕哉真に用  
火着い唐金の巢火着い

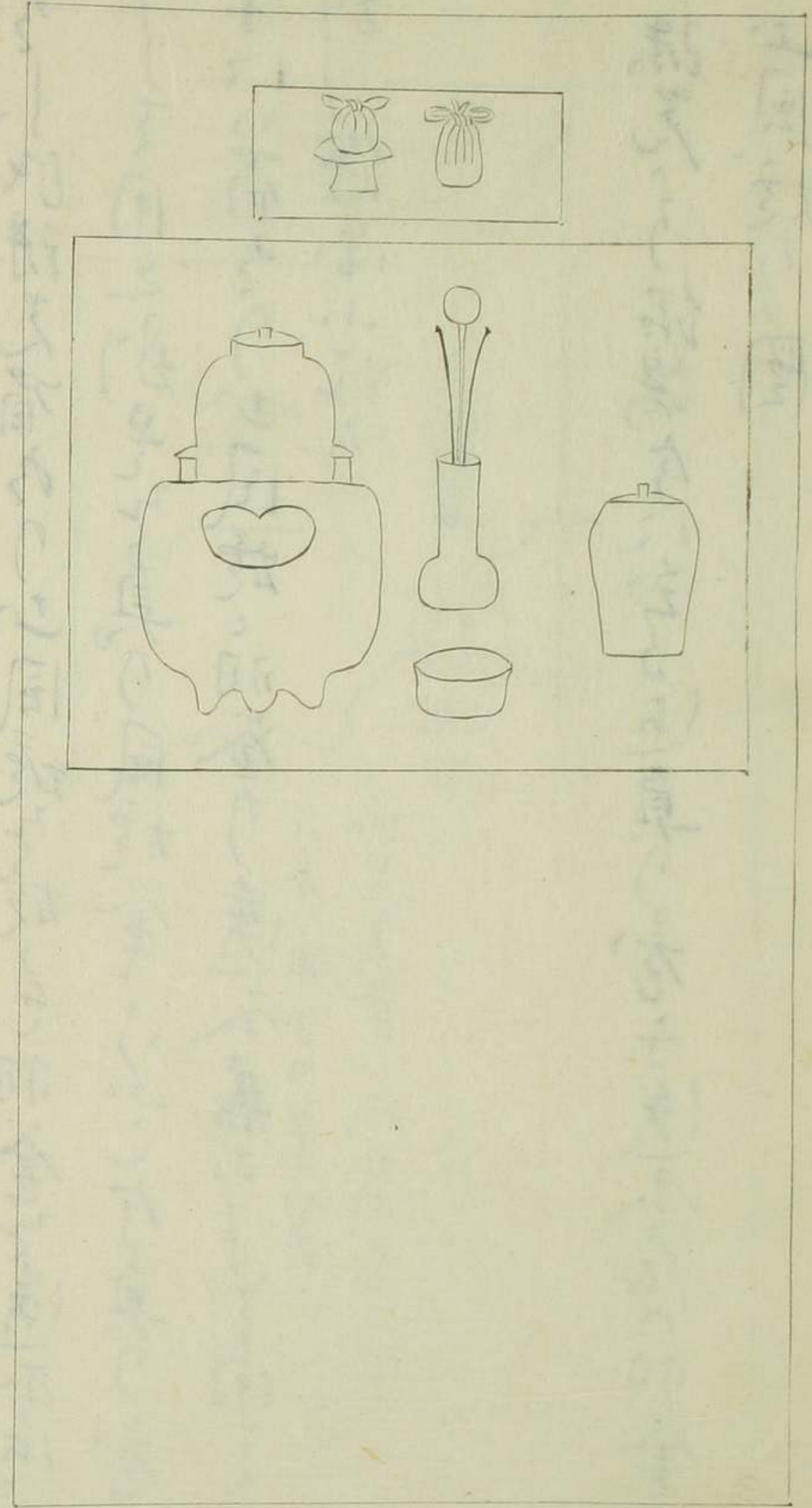
真三袋不用

用の

右し條<sup>ジョウ</sup>品<sup>ヒン</sup>記<sup>キ</sup>を<sup>ヲ</sup>如<sup>ニ</sup>古<sup>コ</sup>来<sup>ライ</sup>寛<sup>カ</sup>系<sup>キ</sup>金<sup>キ</sup>洞<sup>トウ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>毛<sup>モウ</sup>莊<sup>シヤウ</sup>今<sup>イマ</sup>唐<sup>カウ</sup>座<sup>ザ</sup>用<sup>ヨウ</sup>  
 有<sup>リ</sup>し此<sup>コノ</sup>珠<sup>シュ</sup>光<sup>カウ</sup>眉<sup>メイ</sup>有<sup>リ</sup>の<sup>ハ</sup>土<sup>ツチ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>を<sup>ヲ</sup>燒<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>羽<sup>ハ</sup>金<sup>キネ</sup>を<sup>ヲ</sup>透<sup>ス</sup>木<sup>キ</sup>屑<sup>ケツ</sup>に<sup>テ</sup>  
 して用<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>別<sup>ニ</sup>是<sup>レ</sup>を<sup>ハ</sup>真<sup>ニ</sup>の<sup>ハ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>金<sup>キネ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>ハ</sup>今<sup>イマ</sup>真<sup>ニ</sup>の<sup>ハ</sup>産<sup>サン</sup>  
 子<sup>シ</sup>に<sup>テ</sup>い<sup>ハ</sup>眉<sup>メイ</sup>有<sup>リ</sup>の<sup>ハ</sup>土<sup>ツチ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>の<sup>ハ</sup>羽<sup>ハ</sup>金<sup>キネ</sup>を<sup>ヲ</sup>透<sup>ス</sup>木<sup>キ</sup>屑<sup>ケツ</sup>に<sup>テ</sup>用<sup>ス</sup>  
 之<sup>ヲ</sup>條<sup>ジョウ</sup>品<sup>ヒン</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>ハ</sup>

珠<sup>シュ</sup>光<sup>カウ</sup>眉<sup>メイ</sup>有<sup>リ</sup>の<sup>ハ</sup>土<sup>ツチ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>今<sup>イマ</sup>に<sup>テ</sup>用<sup>ス</sup>る<sup>ハ</sup>近<sup>チカ</sup>真<sup>マコト</sup>の<sup>ハ</sup>産<sup>サン</sup>子<sup>シ</sup>に<sup>テ</sup>透<sup>ス</sup>木<sup>キ</sup>屑<sup>ケツ</sup>に<sup>テ</sup>用<sup>ス</sup>  
 土<sup>ツチ</sup>風<sup>フウ</sup>爐<sup>ロ</sup>の<sup>ハ</sup>圖<sup>ズ</sup>

一 香合深羽帚入持出る香子と菓籠を用ひ茶斗の中



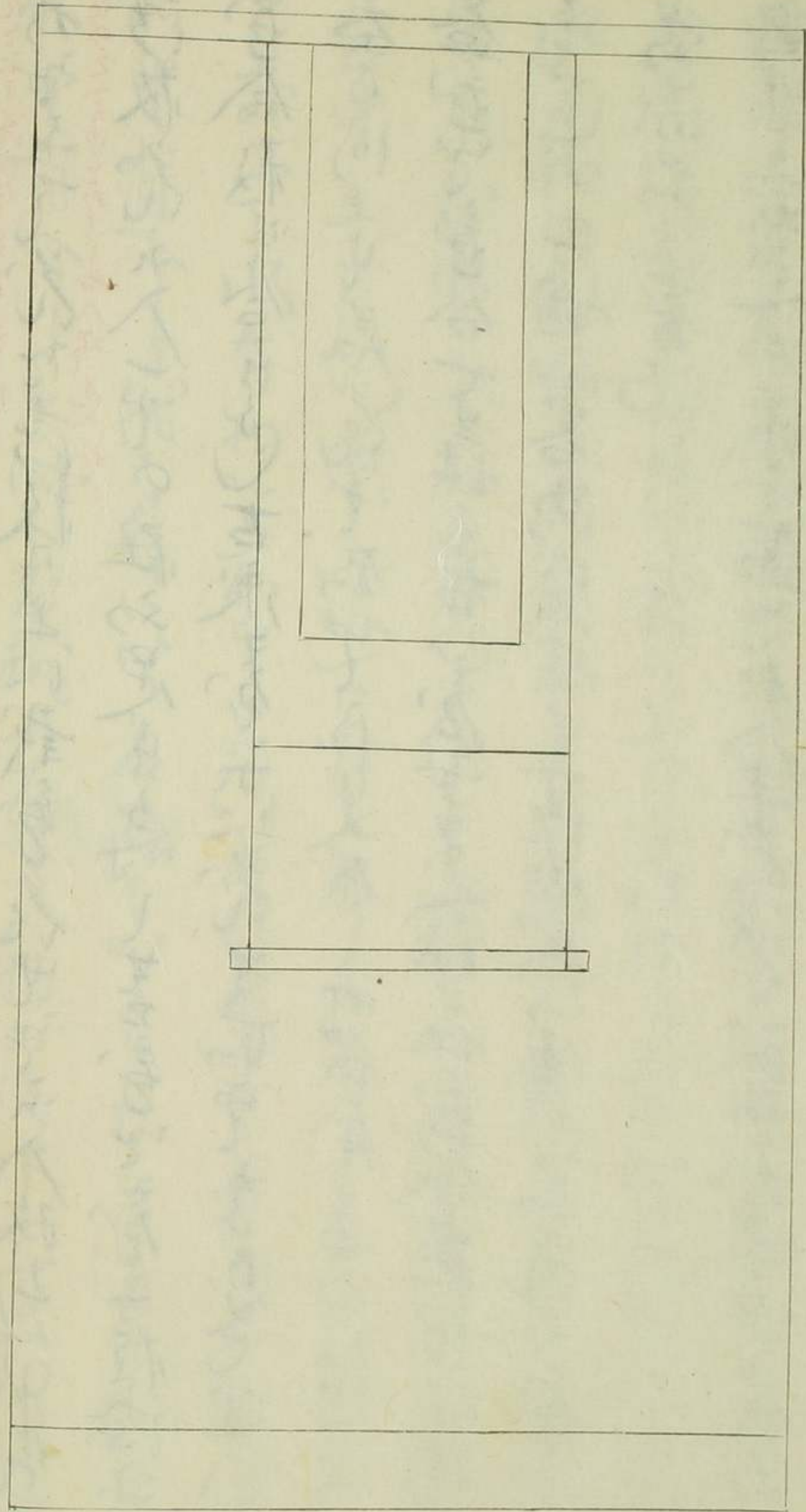
香子深小指の糸小香所成揚子付障子入口足付能取小  
 假小香勝手の障子と立柄丸檜小向以金の蓋の蓋の取り右方  
 ありと腰り和布や取金の蓋の取りと取りと取りと取りと  
 取り廻りけはを廻り懐中より金取を取らば一取斗は  
 前右の方より目二メの程小金おの意取同檜小向以た  
 乃係立金取揚りして金取の上に但香子よりそん七八  
 寸程小川出る一香合深羽帚深浅遊一金の取り方に  
 合口と前小一香取透木の合取右の方の透木取  
 取りたり方の透木取上かき糸一度お取らば一取斗は  
 深小香一透木取の取斗向尺と取糸一取斗



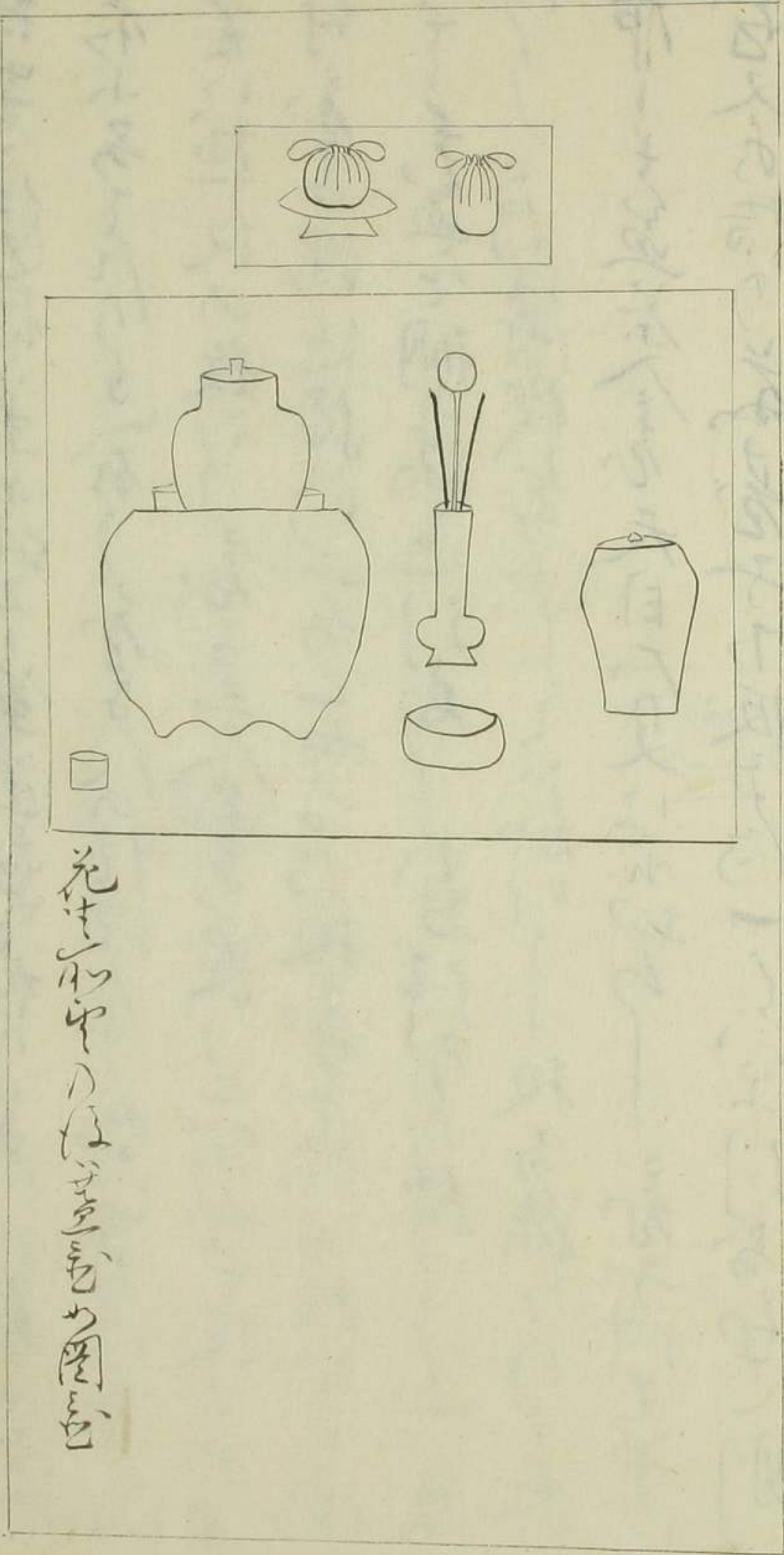




鏡を打案内申し今も高貴のあり亭主案内ふたの後生  
の在修園記下



後生の在初中同前七仕

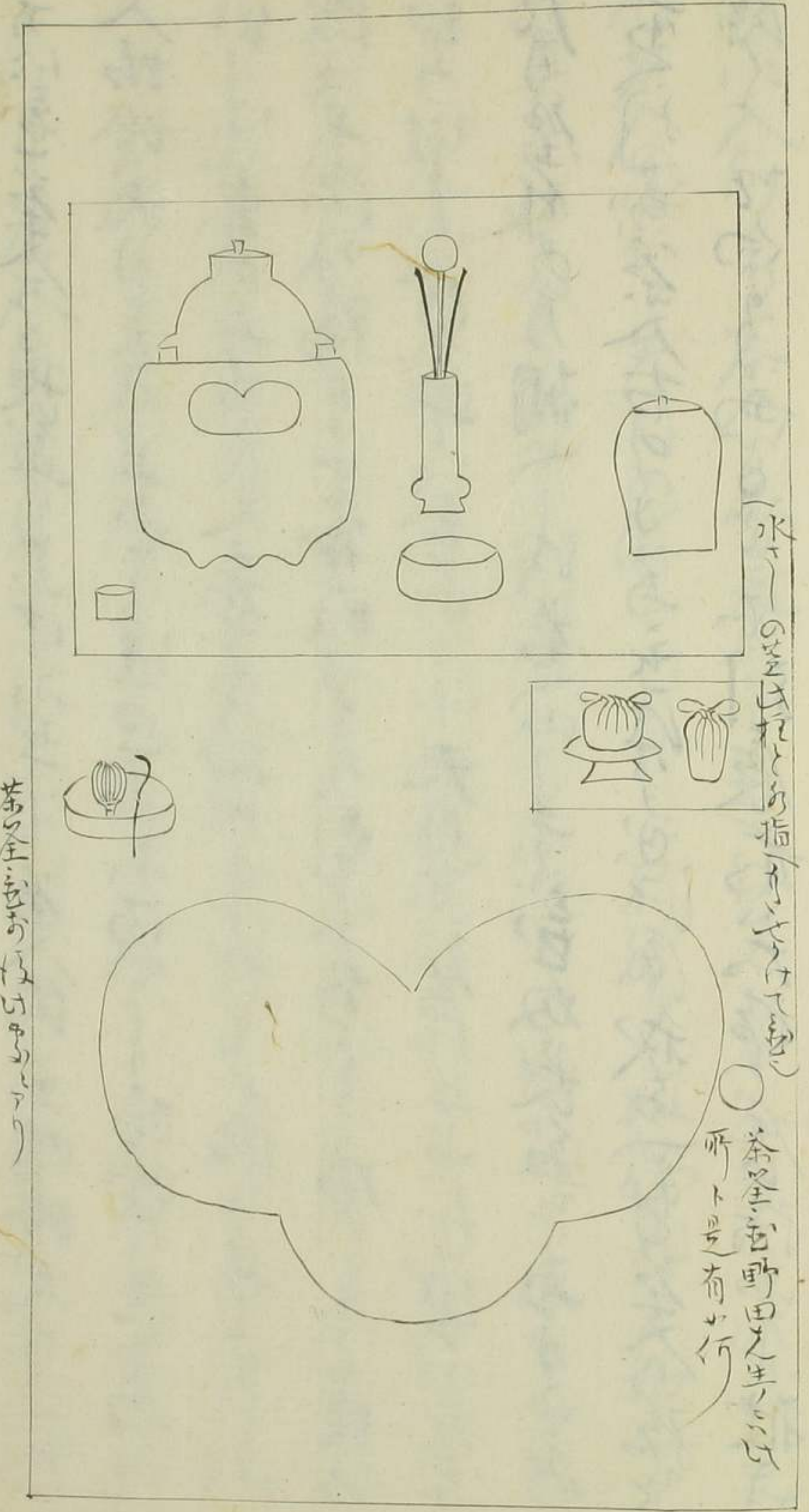


花仕初中の在修園記

一客案内を修修て世介とて床の中道りもは在ふあは終り

世に聞合傷子は世の事多し潤し接ぎして茶の全量は  
持出仕込押し未だ此茶を茶室に右の手に持てて三人  
前もあてたりとあり茶子の櫃はより向ふ手にあて  
爰に極儀の效なり茶子三茶の裏り上茶の木板小目と  
付茶子際迄諸の二歩之歩居板茶子際迄は押ぎの腰  
さし茶室を欄の端迄引あり茶子の腰より下は  
けり肩傳役なりとあり茶子の板を縁をりし裏り  
店も魚茶金天目天目変に水切り茶子付茶室に  
茶又茶子の茶子下板は向ふくし下り茶室と別  
傍圖に記す

一 水覆の用ふる茶室を茶子の櫃際より茶室の對し櫃下は  
茶室と一れあり我れ方縁あり板を天目より下り大



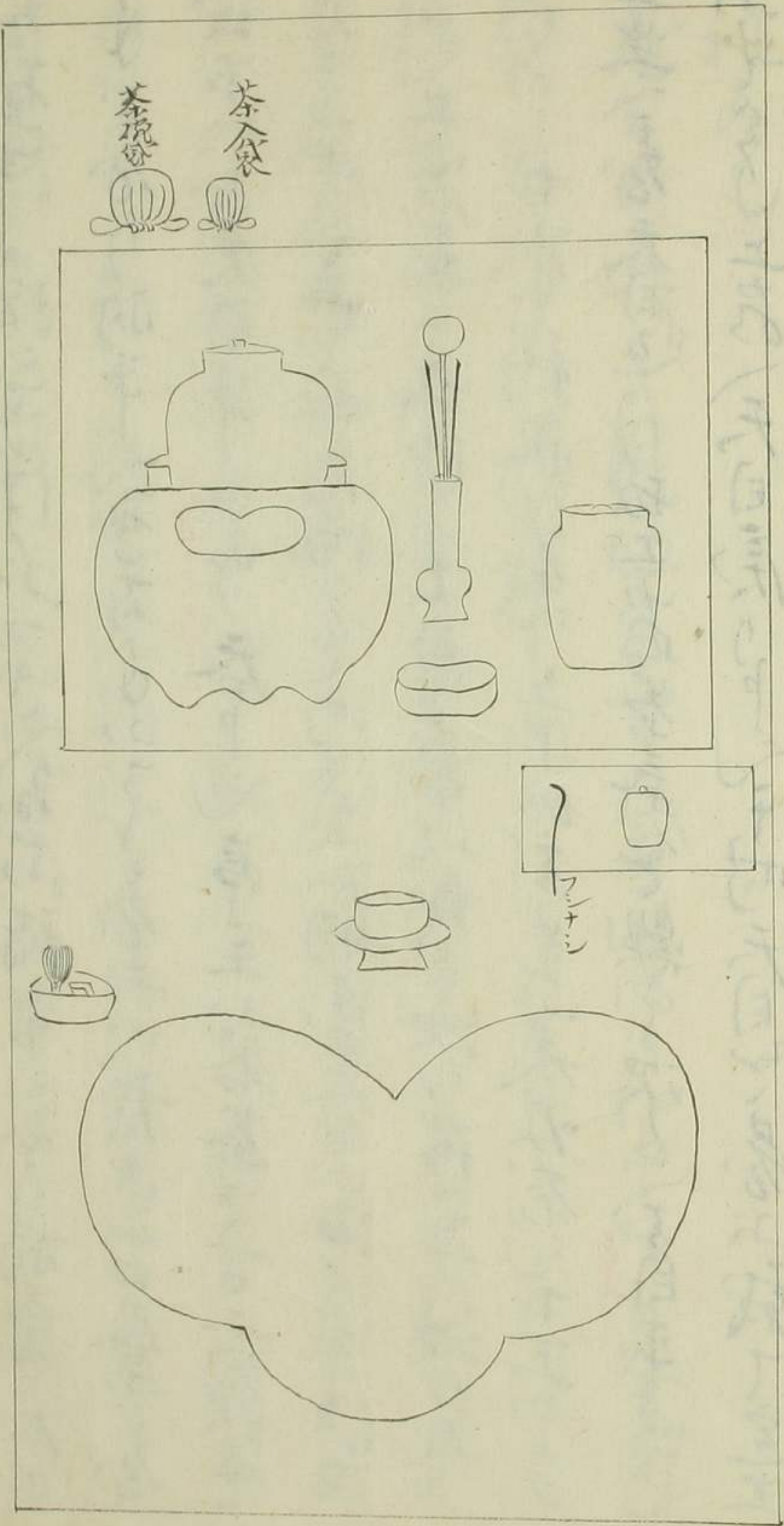






不用  
 流小杯で種茶茶約を多り茶入はて目のよし持ち茶約持ふ  
 うし右のよし茶約を心して茶約を多し茶約を懐くいふ  
 右一人ふ二茶約を入るは茶約をて目か或る茶入の茶入して  
 盆に或る茶茶入の口に茶付くふし和申に茶付く茶付く  
 して茶の茶約を多し天目の中は茶茶入の茶茶入の茶茶入  
不甲尺の種茶  
 天目の中程に茶茶入の中程に茶茶入の茶茶入の茶茶入  
 取り茶の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入  
 茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入  
 て天目の中に茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入  
 茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入  
 茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入の茶茶入

臺子棚道具取前圖



一上客は天目茶多し中いさし一茶天目の茶茶入の茶茶入の茶茶入





天目を載て世法を合亭にれ方二度程ふりて茶入を  
まの右の方に申して返り亭をい長盃はると茶入を盃を  
庵子前へ川が申す村あり一礼有庵子前ふ思り長盃を  
上棚の端に上げ笑ひの無て庵子真中ふ在音合亭を  
又おより世法を度を取めしと望中し水度を取めし  
盃をさかす一途へ水度を取めしお見物の内ふ行くと持て  
指ふ水をさかす一途へ水指の申しに備へて水入水を拾  
しと物入をさかす行ふに物入指の申しお前をさかすし  
お出さし亭を勝り入し又客に對してし座をぬかす  
と茶入し水入し山内水度の内へ世法を合亭に申し行

水指水度世法を合亭に真り庵子に九有度し實を教  
寫名有世法を合亭にし一途を合式し水指を庵子の  
前へ一途へ水指を合亭に定中し一途へ合亭に  
右の如く道に真り庵子の村の中へ水入の定法し  
一真の庵子も盃茶同ふ水指の意を合式し茶入を天目盃に  
おより水入の中へ水入の茶通を合亭に合亭に長盃を  
合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に  
茶入を合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に  
真行草庵子も合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に  
茶茶の流しを合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に合亭に

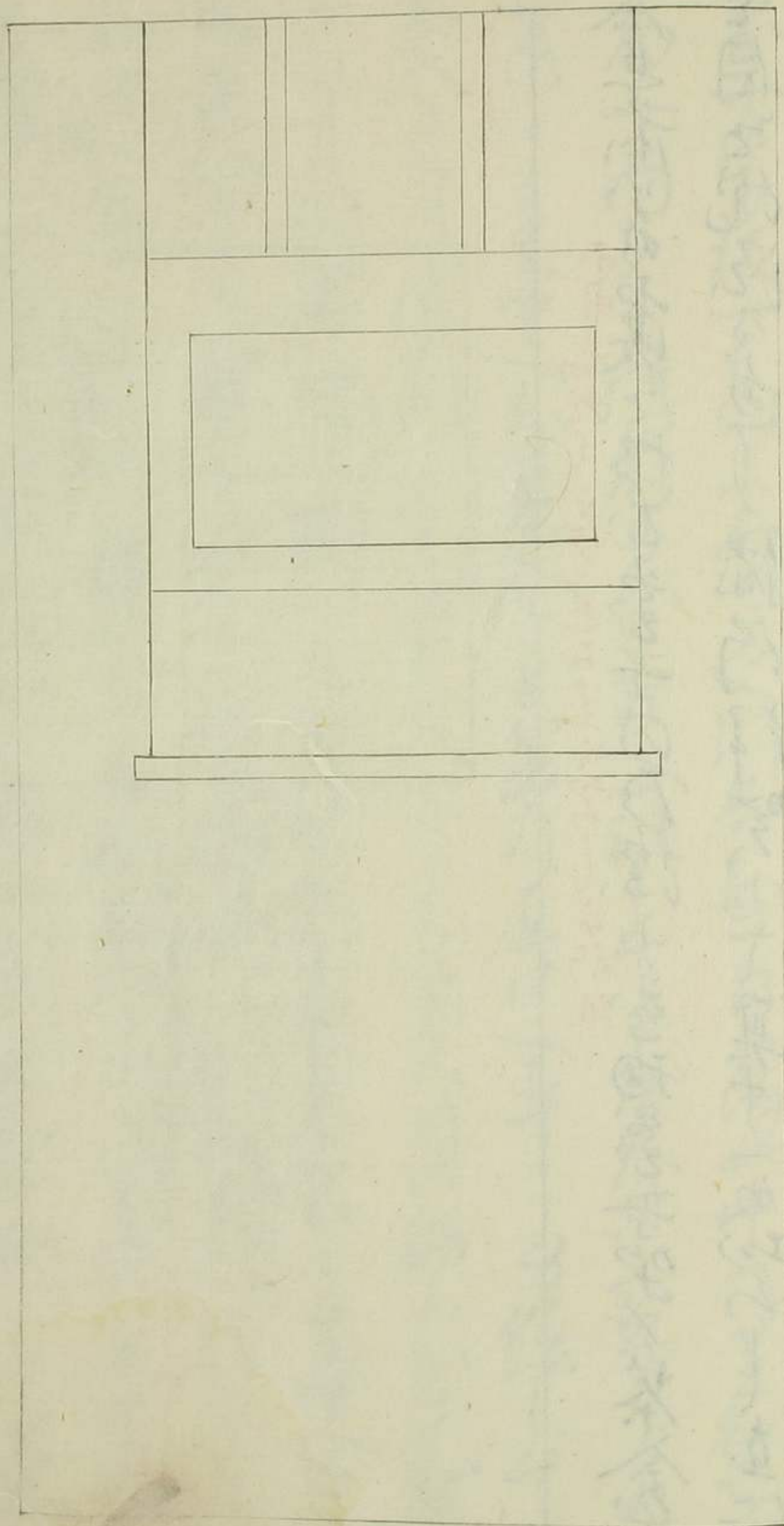
天目の時



田舎茶屋のてま、客はあつて、高、八、濃茶は、  
 直にお茶書、沈、お、夏、少、物、や、今、し、教、分、を、茶、屋、お、  
 夏、本、し、し、

二行、墨子作法之夏

一、床、の、在、合、真、と、は、在、き、り、床、物、中、墨、子、の、上、に、七、盆、に、茶、  
 香、天、目、下、架、い、お、持、雨、の、五、盆、し、先、に、行、の、上、在、し、お、皮、の、運、の、持、お、  
 之、運、の、茶、の、お、可、知、又、一、床、小、盆、盆、石、香、が、一、盆、所、お、在、合、  
 之、行、の、真、の、通、七、在、り、し、又、三、在、し、お、盆、と、可、知、乃、真、の、  
 和、成、の、道、具、數、五、持、お、可、知、是、行、圖、の、沈、の、但、行、の、お、  
 床、之、夏、真、と、同、茶、を、い、し、り、お、床、の、茶、の、右、之、



行、墨子初、在、之、在、茶、は、真、真、之、墨子、同、茶、

七、在、之、傳、之、墨、茶、盆、を、し、又、真、の、通、し、

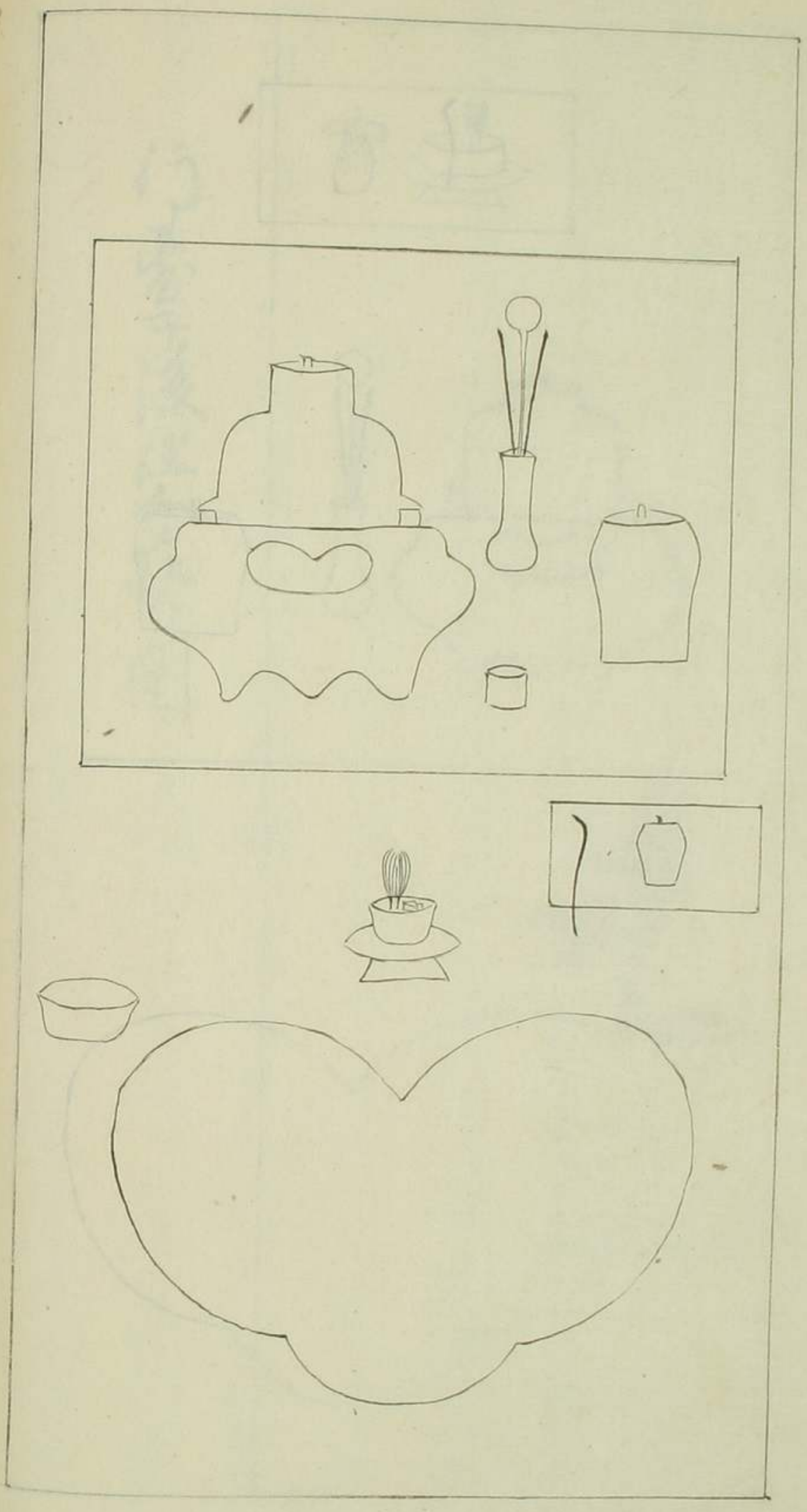








子より又丙午向ありしは露のいり度まで子へ向ふこと  
 行臺子立前立の圖



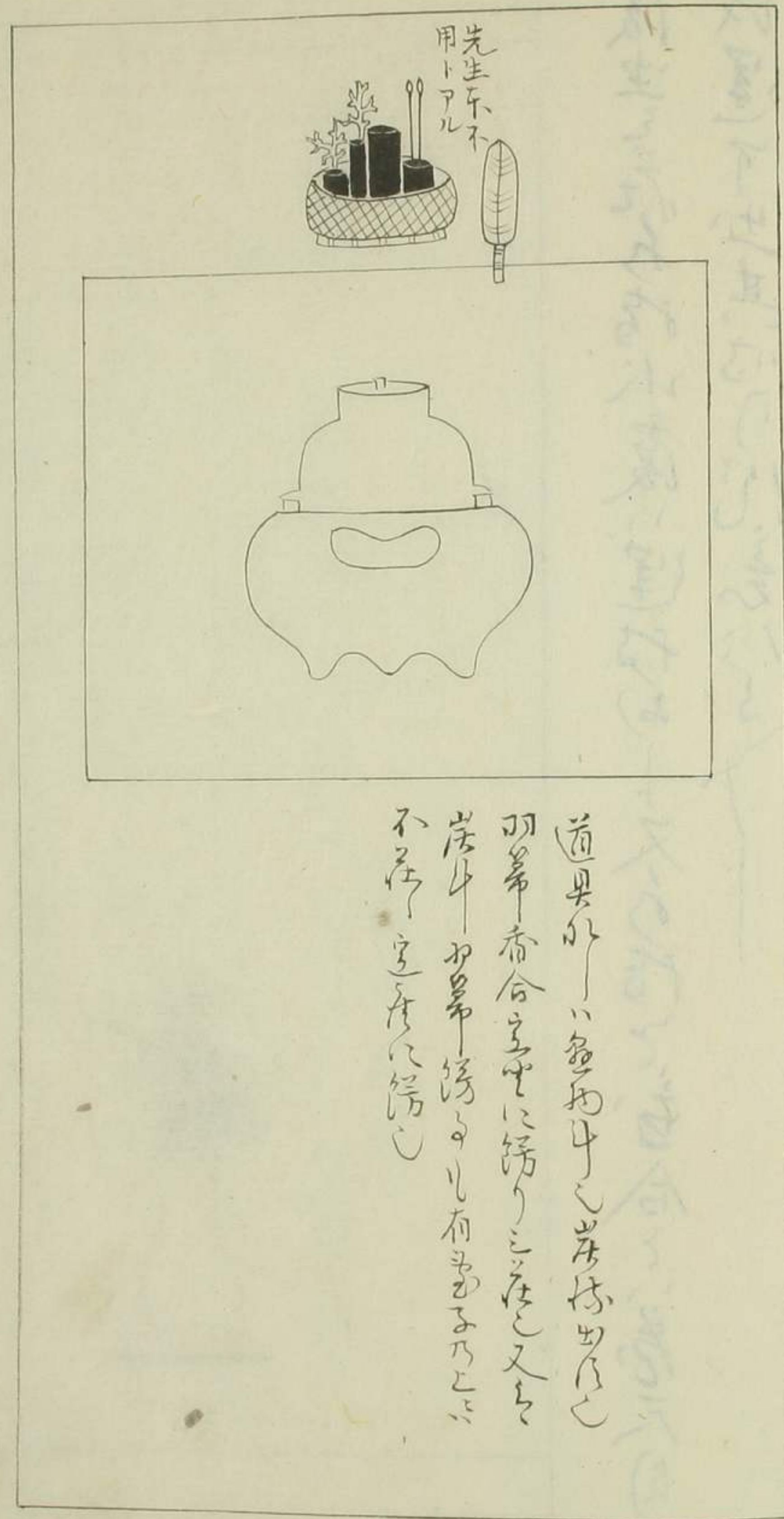
三草之臺子一ツ居一ツ並之夏

附立前之夏

一臺子真中小風爐釜けを居置し是を道具取しの一  
 所と云ふものなりいれお物物茶子架りといふはゆはわん汁  
 羽幕といふ草三草是之炭の茶菓子と云ふもいふ夏草  
 室庭にほほ少くお物をいれ花活中しるもいふもい  
 ひ舟茶子のうけ架りもいふもいふ茶入るを月といふは  
 別いかな後中と繪圖ふれり

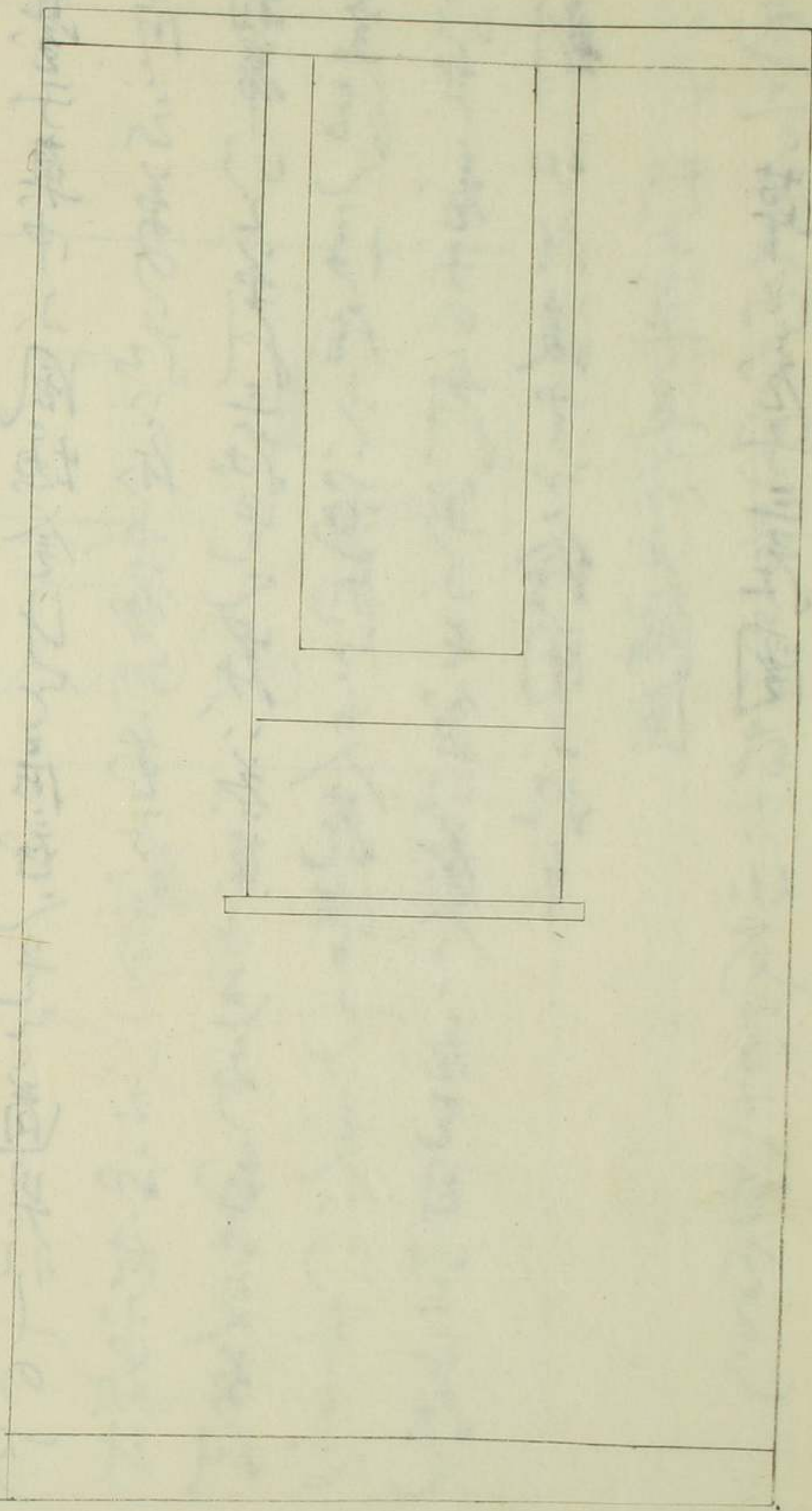
草し茶子三草圖

菓付卷子後出之花圖



道具のハ各物中ハ茶付出の  
 功希希合字中に傍りに在り又ハ  
 炭ハお希希傍りに有る事乃ハ  
 不存 定座に傍り

初出之花是也道具ハ一ツ所ニ在リ此ハ不爲り炭ハ  
 料理ニ在リ一ツ所ニ在リ中ニ在リ





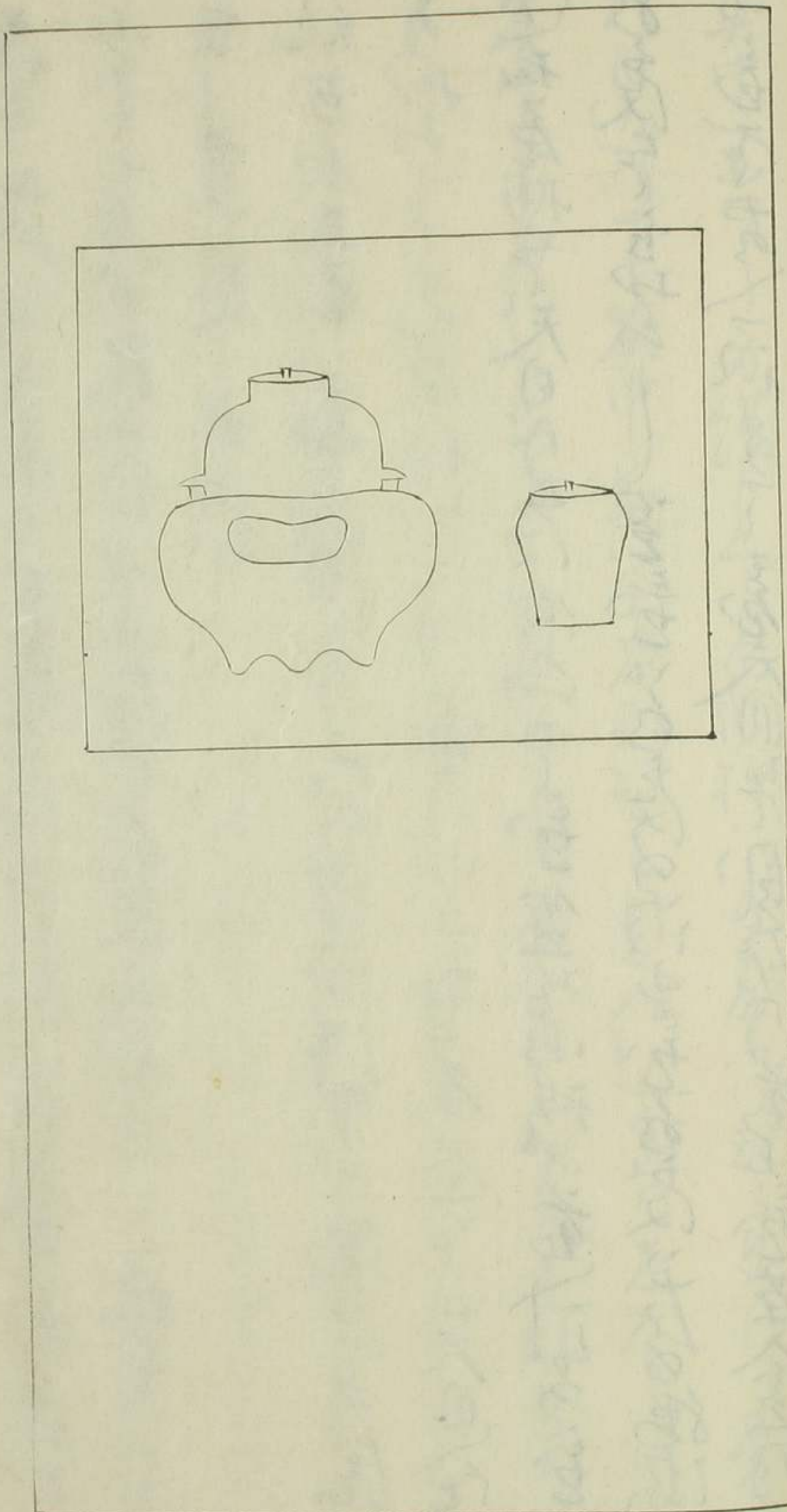








一 炭坑を前におくはては風が乃何可也と可か炭の風が  
 多あり申式し是を草の童子申式し云わ略の略を草の  
 草と成いれ是の又つて草の童子申式し古来此  
 事知しと行草童子茶道有と受し四方盆の申しは紙  
 利休の四方盆を用ゐる受し物して風が古来金風  
 煙馬有といは珠光の土風炉を焼て羽金を透す所は  
 童子の申合は紙馬より五徳の所より今頼島風が申  
 五徳の所より風が小自在障は是の紙馬より  
 此の所より申しは童子の障用を記す  
 草童子水指の童子の障用を記す



四乱茶盆立之度

一 乱茶の六丸盆に茶入を天目合盆の向真中に茶釜を置き

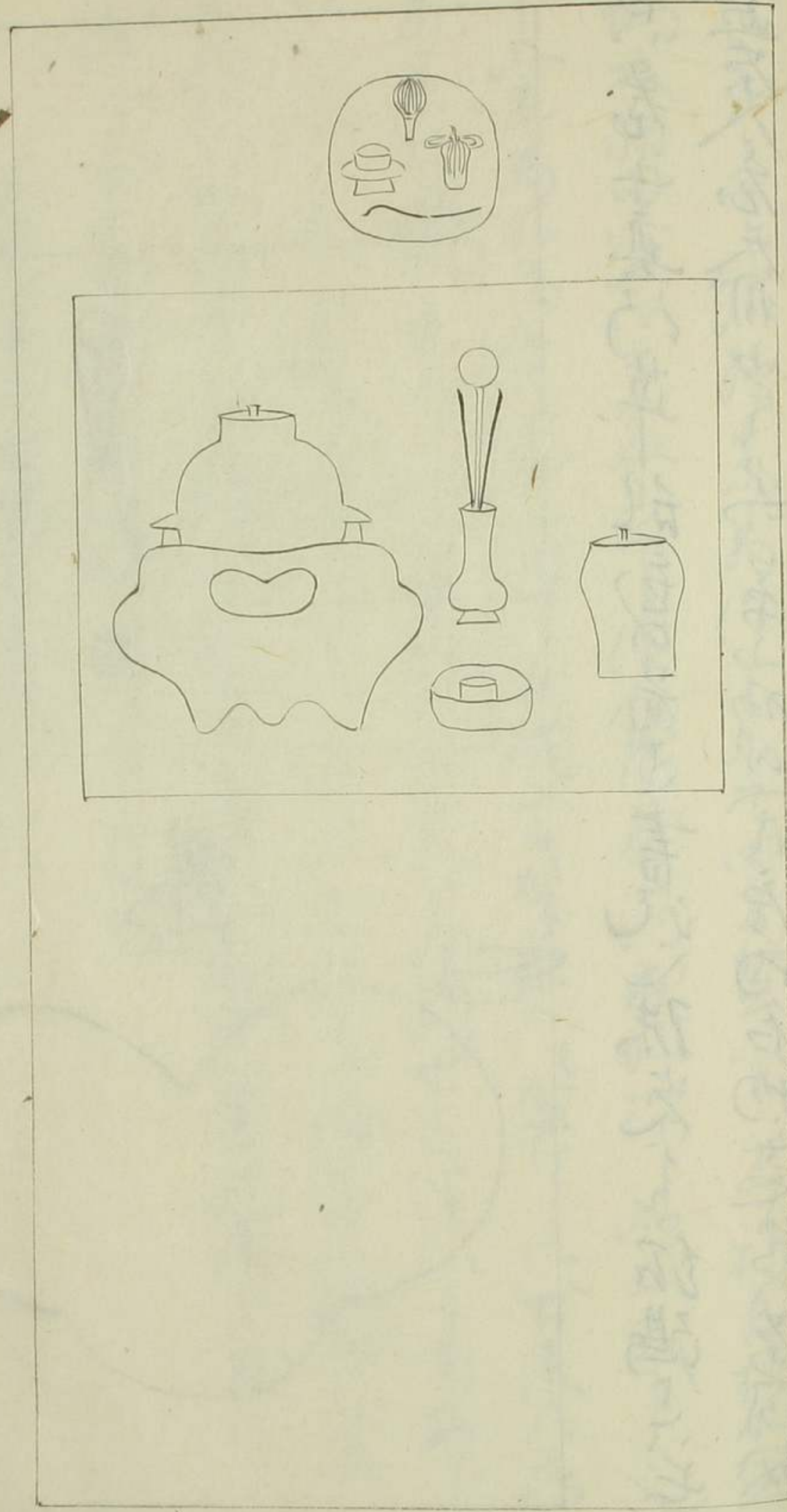
茶杓を前へ持ち茶中へ天目の中へ仕込中へ此茶杓子  
上へ茶杓を合ふ茶杓式燈中へ通へ茶杓茶杓式灯の  
茶杓上へ通へ茶杓子も茶杓を茶杓の間に仕込有茶杓の上  
少へ茶杓の粒少合へ茶杓を仕込有茶杓の間に仕込有  
あり有て受と可也

一 乱茶茶杓を合へ茶杓子も茶杓を茶杓の間に仕込有茶杓の上  
少へ茶杓の粒少合へ茶杓を仕込有茶杓の間に仕込有  
あり有て受と可也

真中へ通へ茶杓を合へ茶杓子も茶杓を茶杓の間に仕込有茶杓の上  
少へ茶杓の粒少合へ茶杓を仕込有茶杓の間に仕込有  
あり有て受と可也

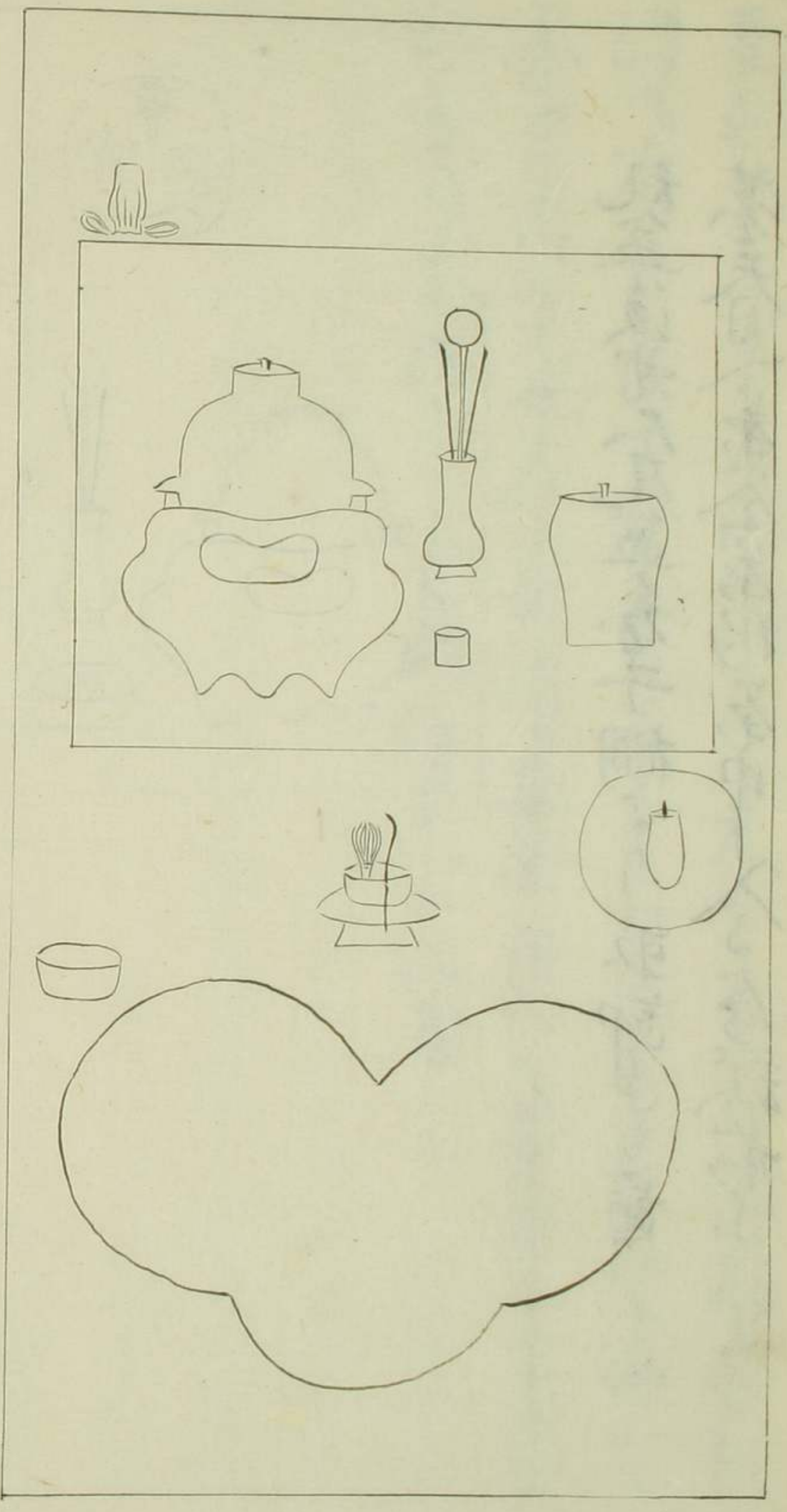
夏利休及く茶のふ用いて夫より茶碗を甲いし  
 傳し有るは廣中お床の仕度より小茶子て花を所し  
 茶子の内少して茶小物柄を茶釜茶杓を並合して  
 此畫の定法より別傳圖小記也

乱畫初傳之圖



乱畫後中丸盆茶子棚より取卸しる畫  
 甚天目へ茶釜茶杓茶巾入る唐紙前小紙

右の童子真行草乱の面と書況の珠光より紹鴻と云  
 盆茶入危天月少くは、茶少所出、唐物右物之、茶同成

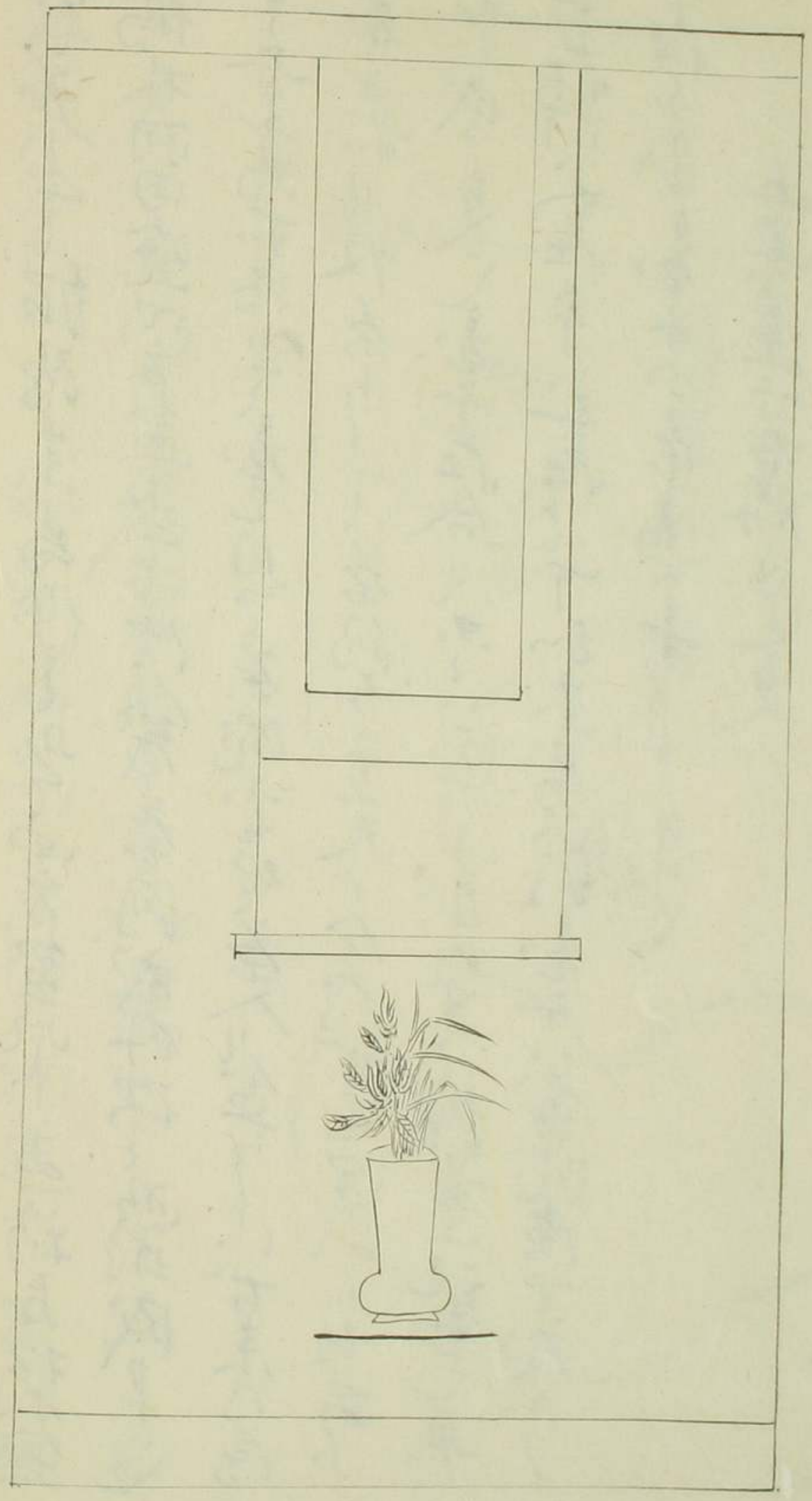


か、水とて紹鴻宗馬作、少く四方盆、一、多、新、お、松、木、盆  
 鴨、林、羽、田、塗、口、方、盆、少く、俗、人、幾、茶、同、成、好、物、之、所、不、成、中、之  
 之、宗、馬、所、為、少く、危、天、月、と、茶、碗、不、出、唐、茶、入、盆、之、古、未、乃、爲  
 茶、之、前、以、吸、茶、之、て、茶、同、を、定、夫、分、今、行、世、と、運、い、い、あ、あ、不  
 可、成、中、更、く、危、子、在、合、し、あ、い、區、少、出、の、可、と、傍、首、小、記、之、真、  
 七、在、行、之、在、字、の、三、在、可、知、宗、易、以、故、危、子、書、況、唐、中、友、り  
 危、小、盆、危、子、の、茶、湯、の、葉、り、り、更、く

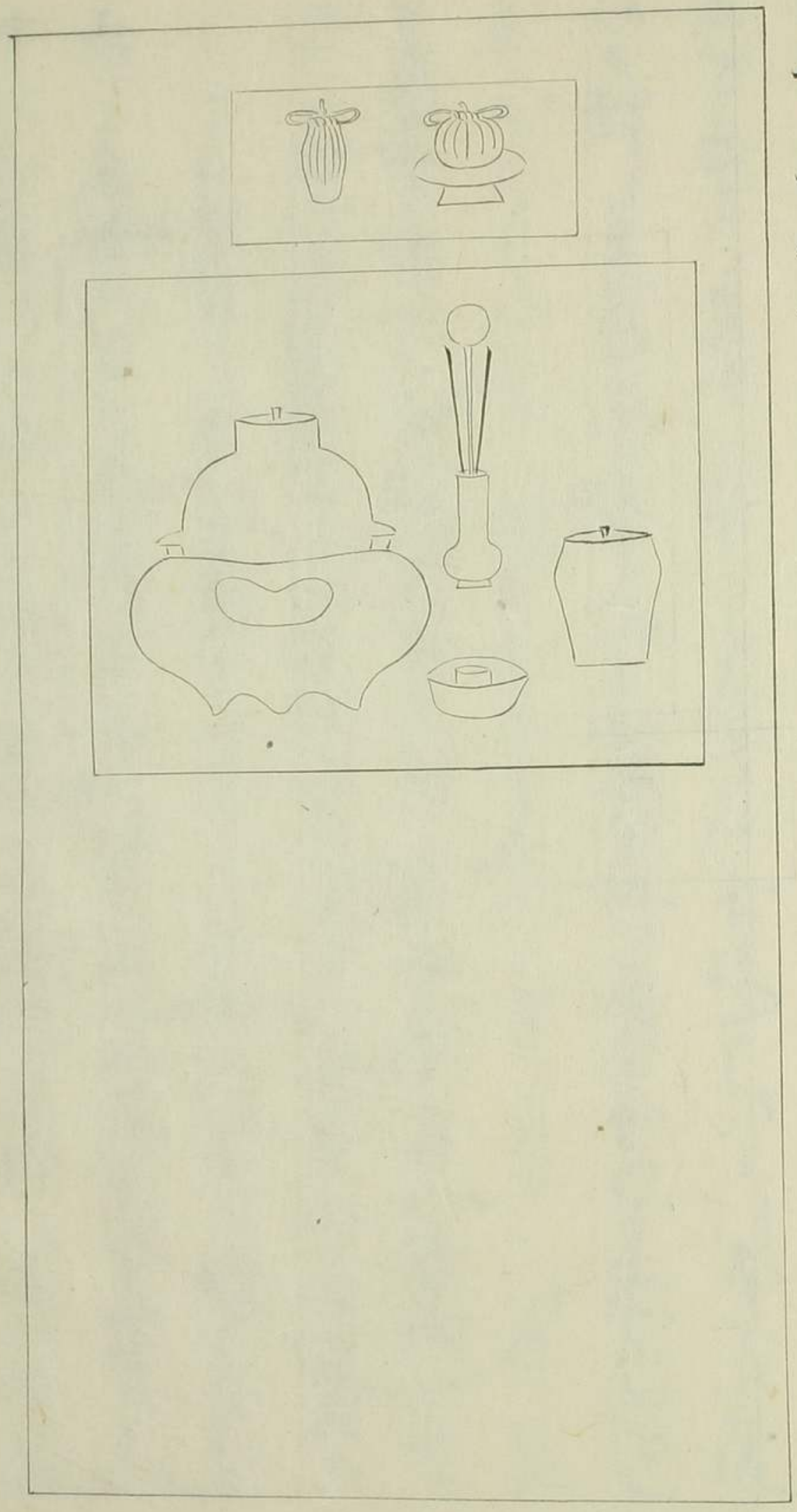
五真童子右勝之夏

一、危、子、順、右、勝、之、運、と、之、危、子、上、空、の、在、在、并、同、前、物、乃、茶、入、之、危、  
 天、目、の、古、の、也、之、運、い、茶、同、右、勝、之、運、合、に、茶、入、を、右、に、五、合、と、る、夏、長

盆を茶室に置くは別な合符前を以て凡ての茶室に置くは煩  
 況有之の代に右の如く置くは煩れん底に茶室に置くは煩  
 況有之の代に右の如く置くは煩れん底に茶室に置くは煩

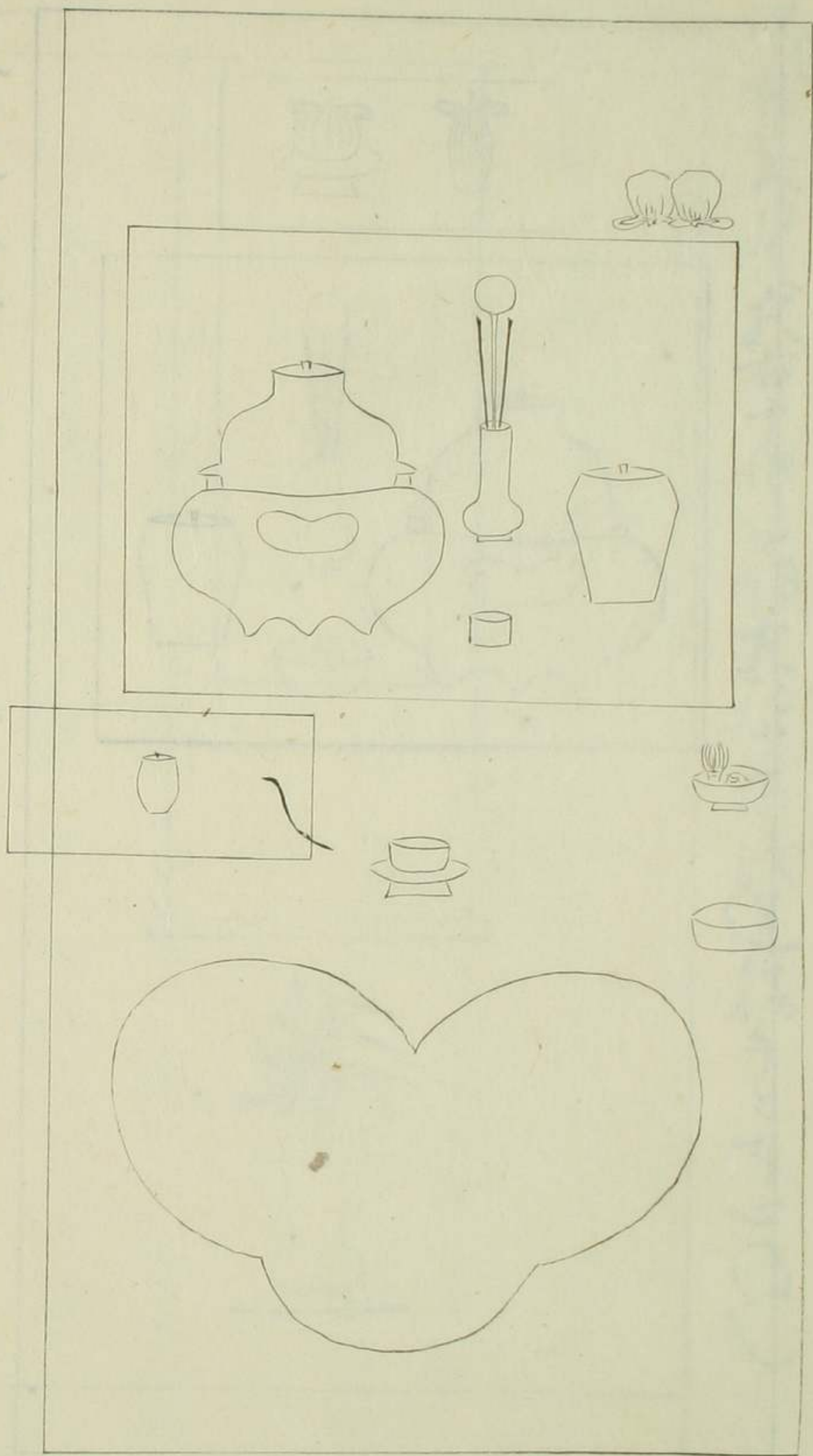


真菴子石湯の切中し茶入室の



おく方

真臺子右勝の取崩立前之圖



おろし方

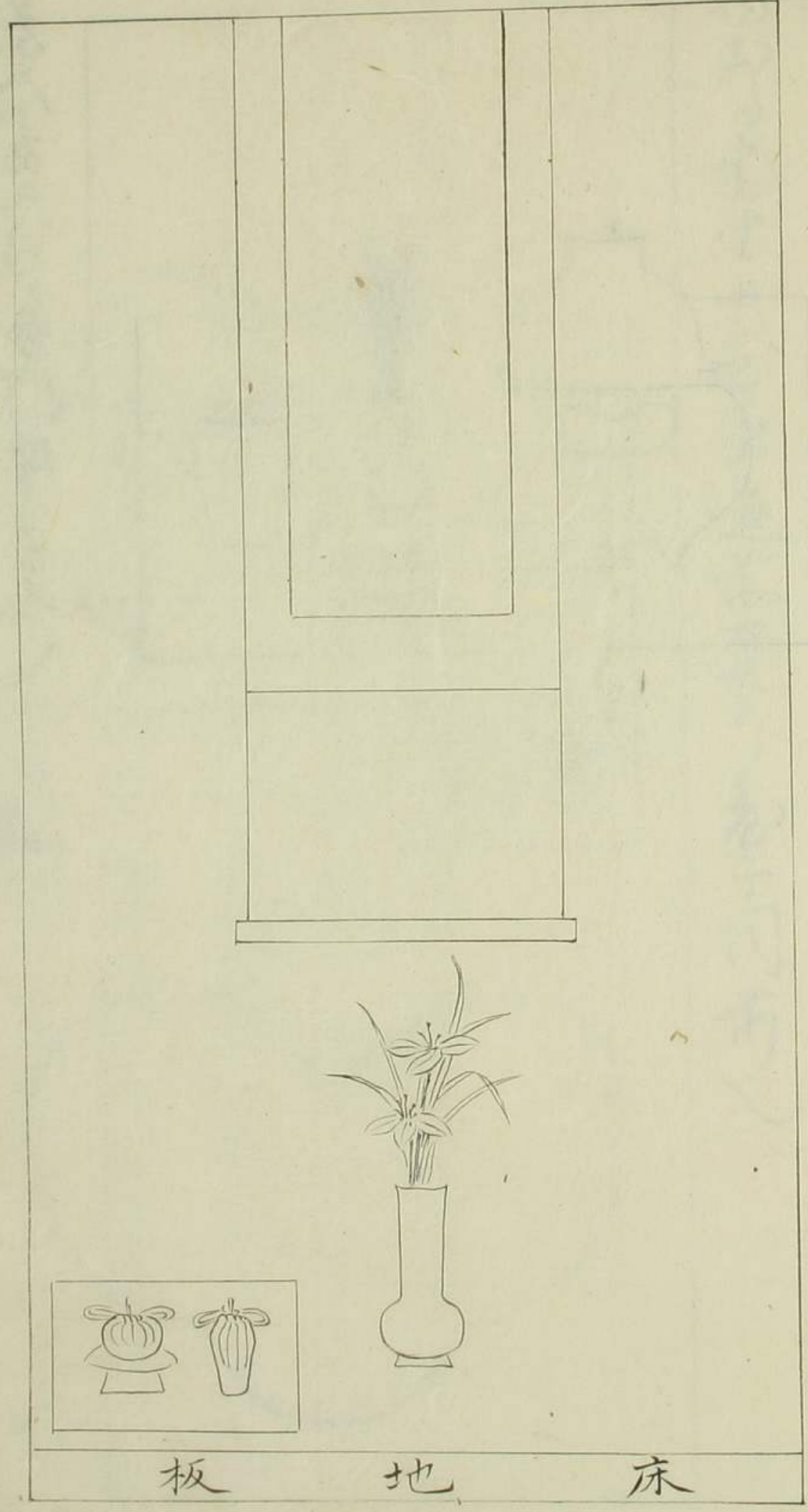
一右勝の茶盆前には茶盆を置くはさき中に置くは膝行拜答と長  
 盆を臺子の真中へ置し臺子下板へおろしおろしおろし  
 成水卸 臺を置くはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 臺を置くはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 を茶盆の前へ置くはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 茶盆の臺子上架すはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 うけはさきの茶盆を置くはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 茶盆の臺子上架すはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 中に茶盆を置くはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき  
 茶盆の臺子上架すはさきの茶盆を置くはさきの茶盆の前へ置くはさき





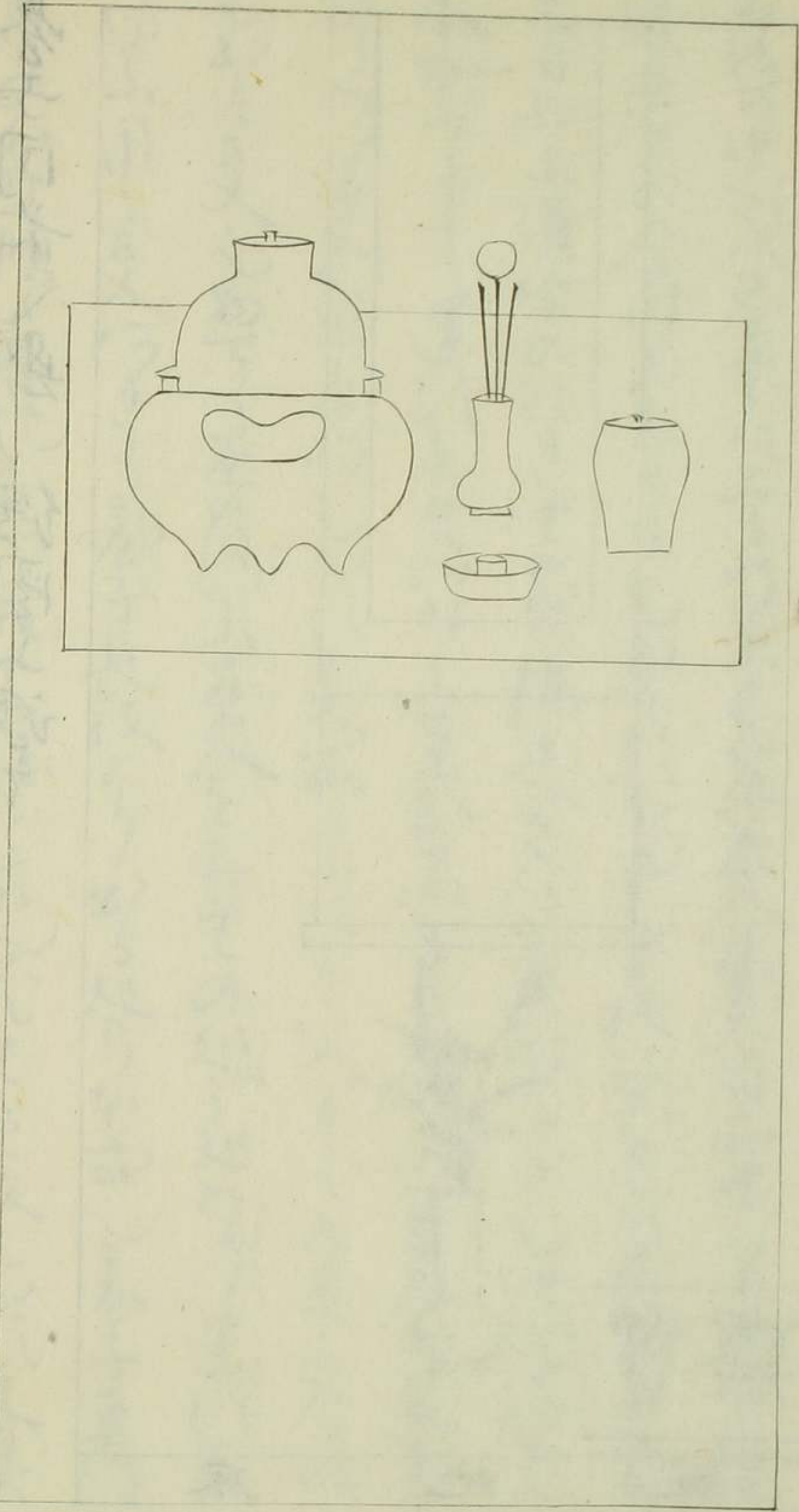
洋風の茶入の右の茶をこぼし合ふては定法の如式にも板を乃  
 門の茶合をこぼし合ひ水邊を杯合の如く詰付たりとて  
 茶の中へ入室中に上り下りも茶盤茶入を茶入目付合に子細に物  
 道具を配入る付ふありては此の如く式にも板の茶合を  
 此目共小道具の如く中におく儀とて其の如くしは此の如く  
 本よりして運ひ茶の如く小道具を両方の茶入茶盤配  
 おり茶入袋茶合の如く配り受取不注ぎりしは其の如く時  
 をむと受く物とて茶の同小茶入を茶中の如く配り運ひ茶  
 合を用ひ受取しは茶子長夜より出る如く配りし茶子真行  
 草の如く配り書記の如く配りし茶合を配りし茶合を配りし茶合

茶子同前(別) 修圖上証

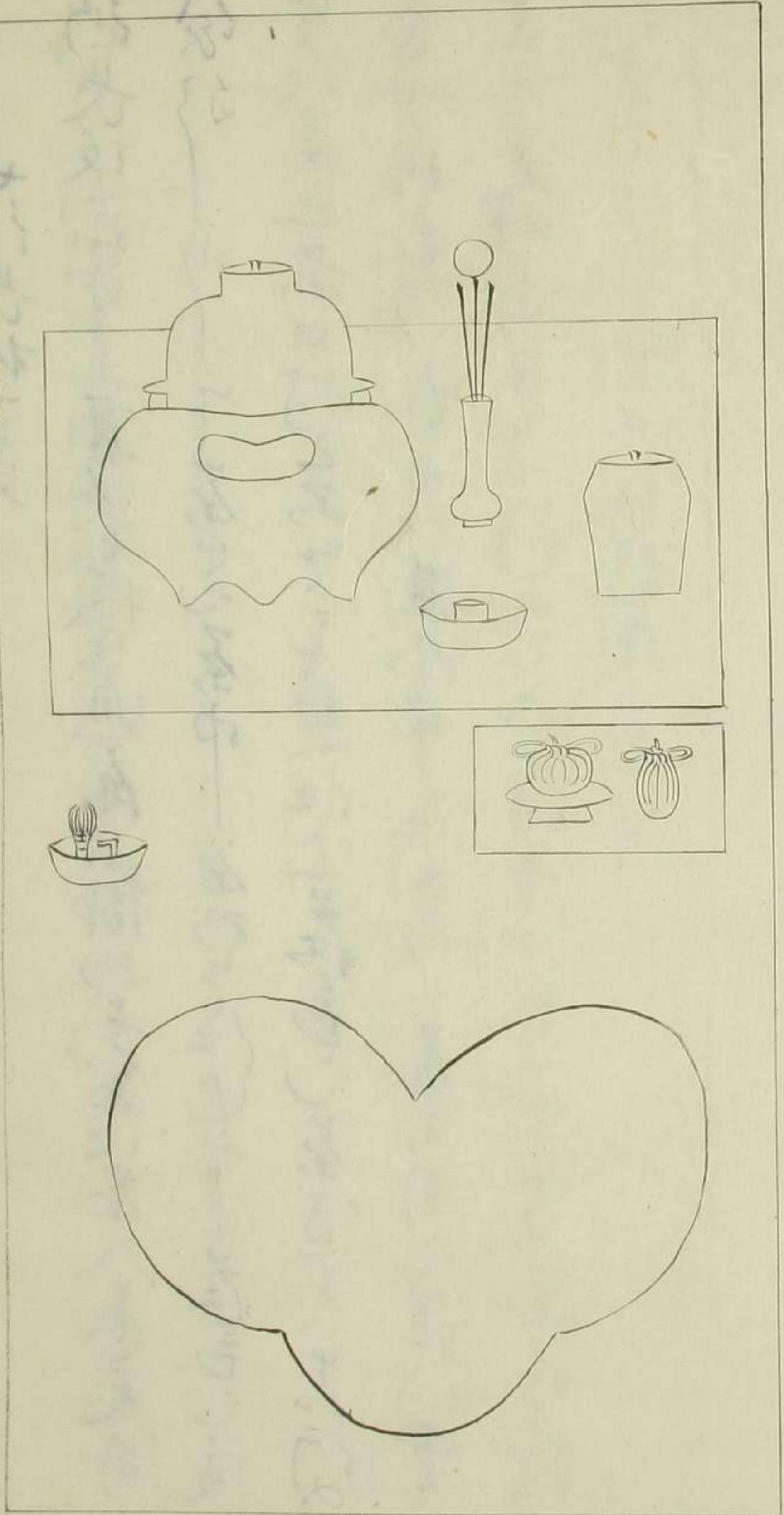


真長夜印中し茶長盆茶合茶入床小合合し其板乃と小の図

のりくお指而少互の長後之品と都合し但上中床下中床小ありて  
 茶合を三日お指置る更し



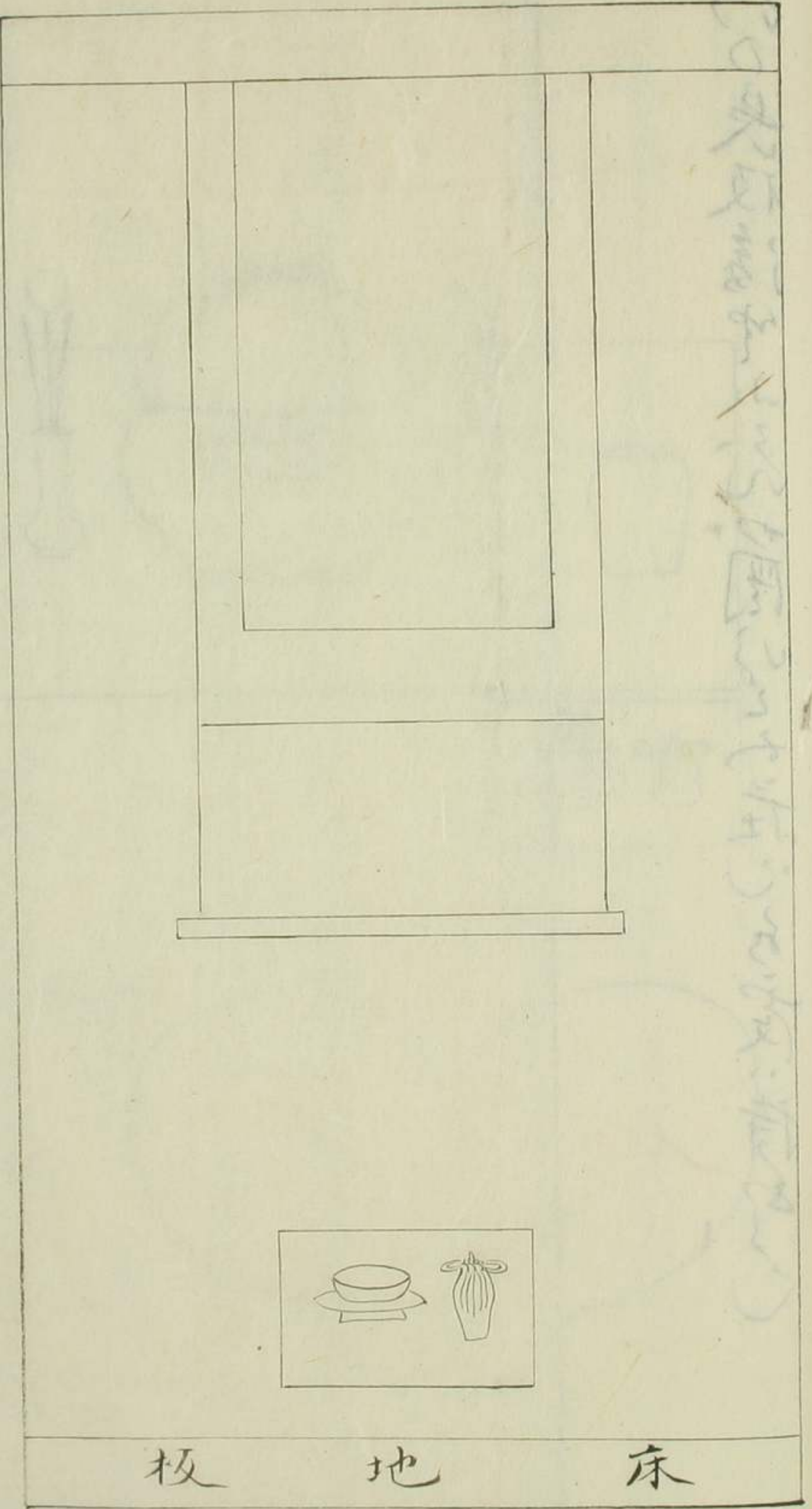
真長板後中か岡水指のあ小長互茶合を天自在合て茶合を  
 持出る室中少も茶道茶真の毫子同前し



七行長板之更

一 行長板の初叶より真の七板の通床に掛物も盆に茶入も天目  
 袋の... 茶巾... 茶碗... 茶道... 茶入... 天目...  
 盆子... 茶入... 茶巾... 茶碗... 茶道... 茶入... 天目...  
 更も又叶より... 別七板... 茶入... 天目...  
 他... 別七板... 茶入... 天目...

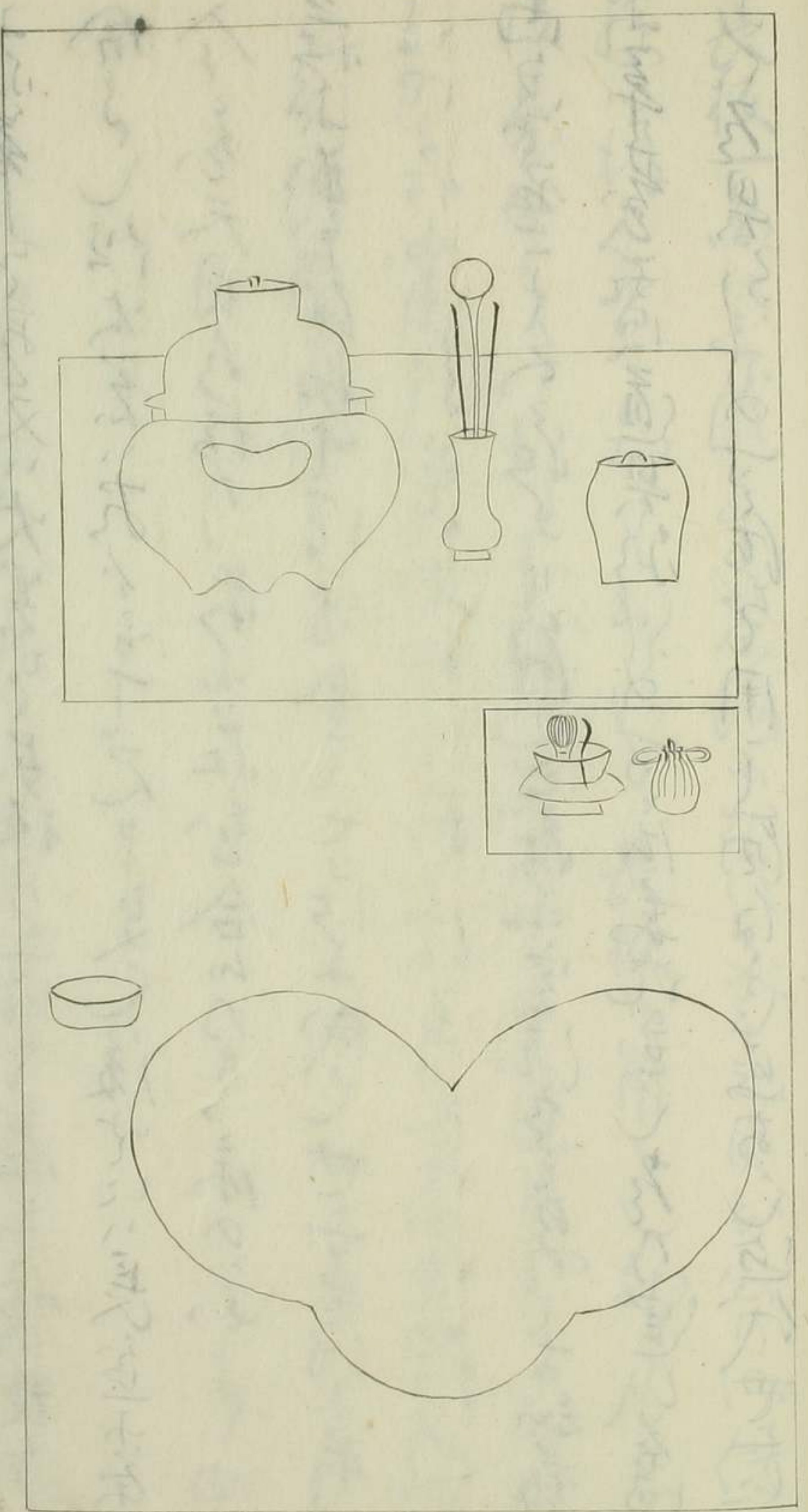
初叶の長板初叶の位



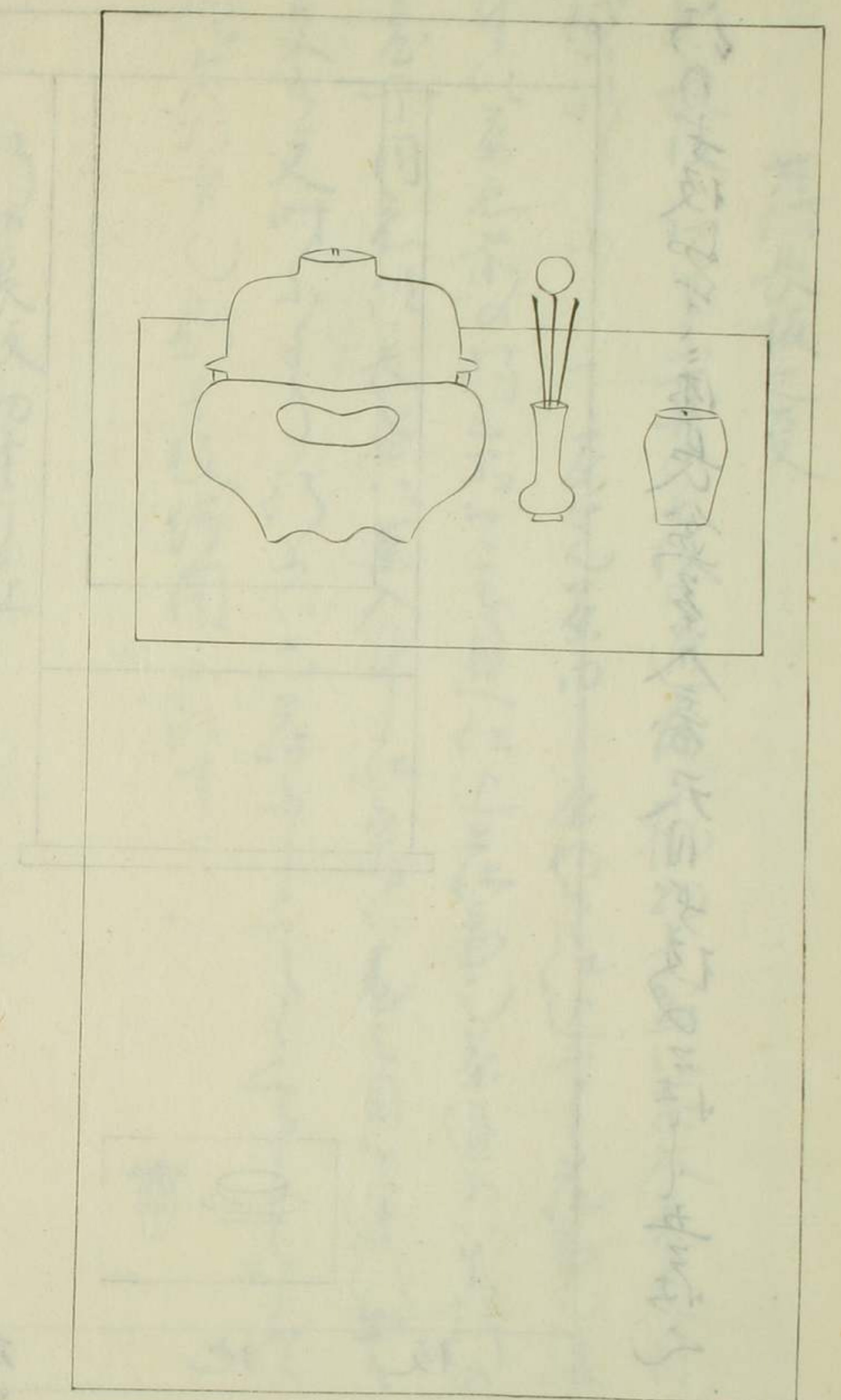
初叶の七板... 盆... 茶入... 天目... 七板... 茶入... 天目...

一草の長板の草子にきり夏あしきりし風越つておとろ

八草長板之夏



乃の長板後中ふんや園いとしはこら度持ぬ

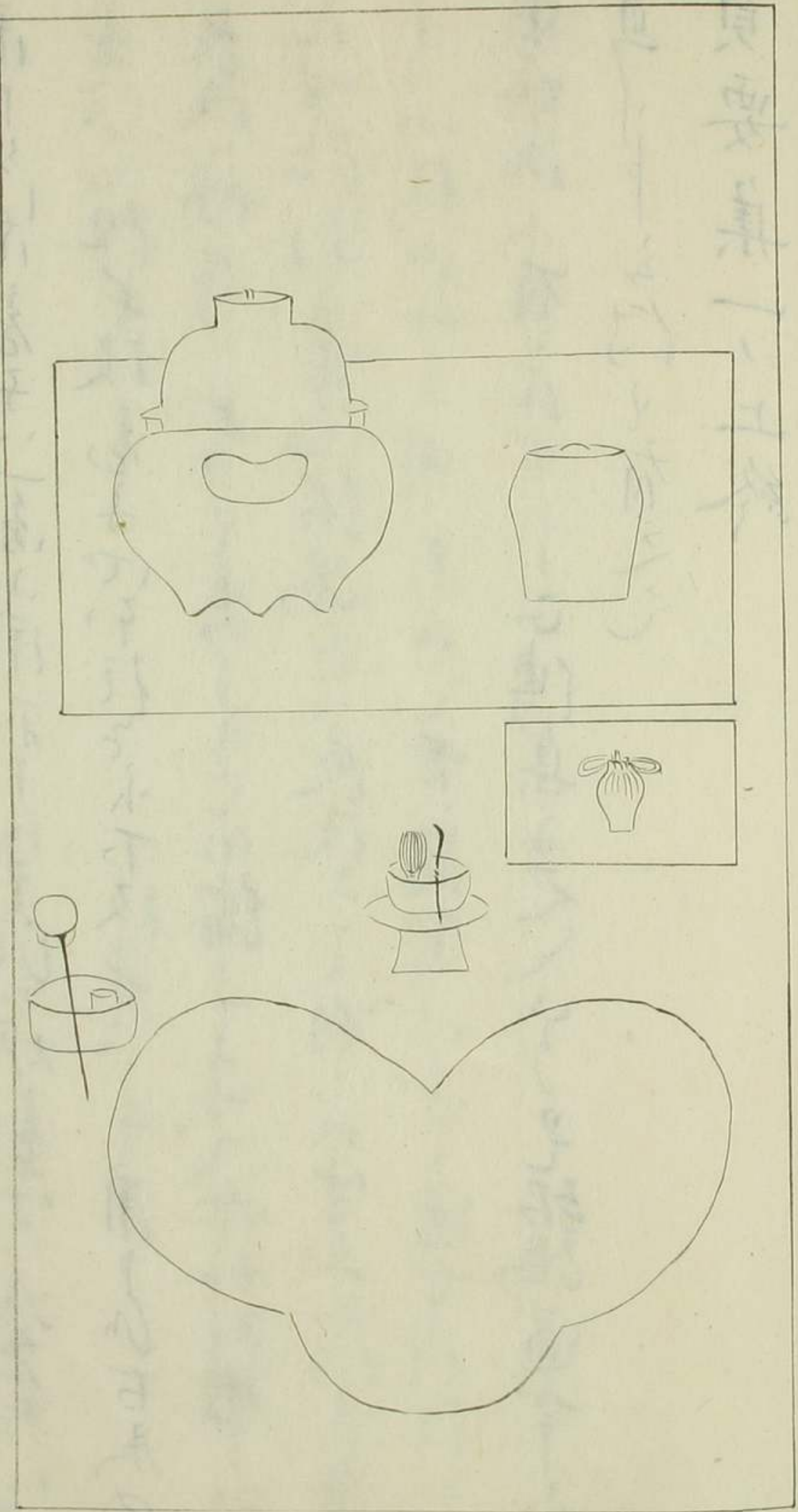
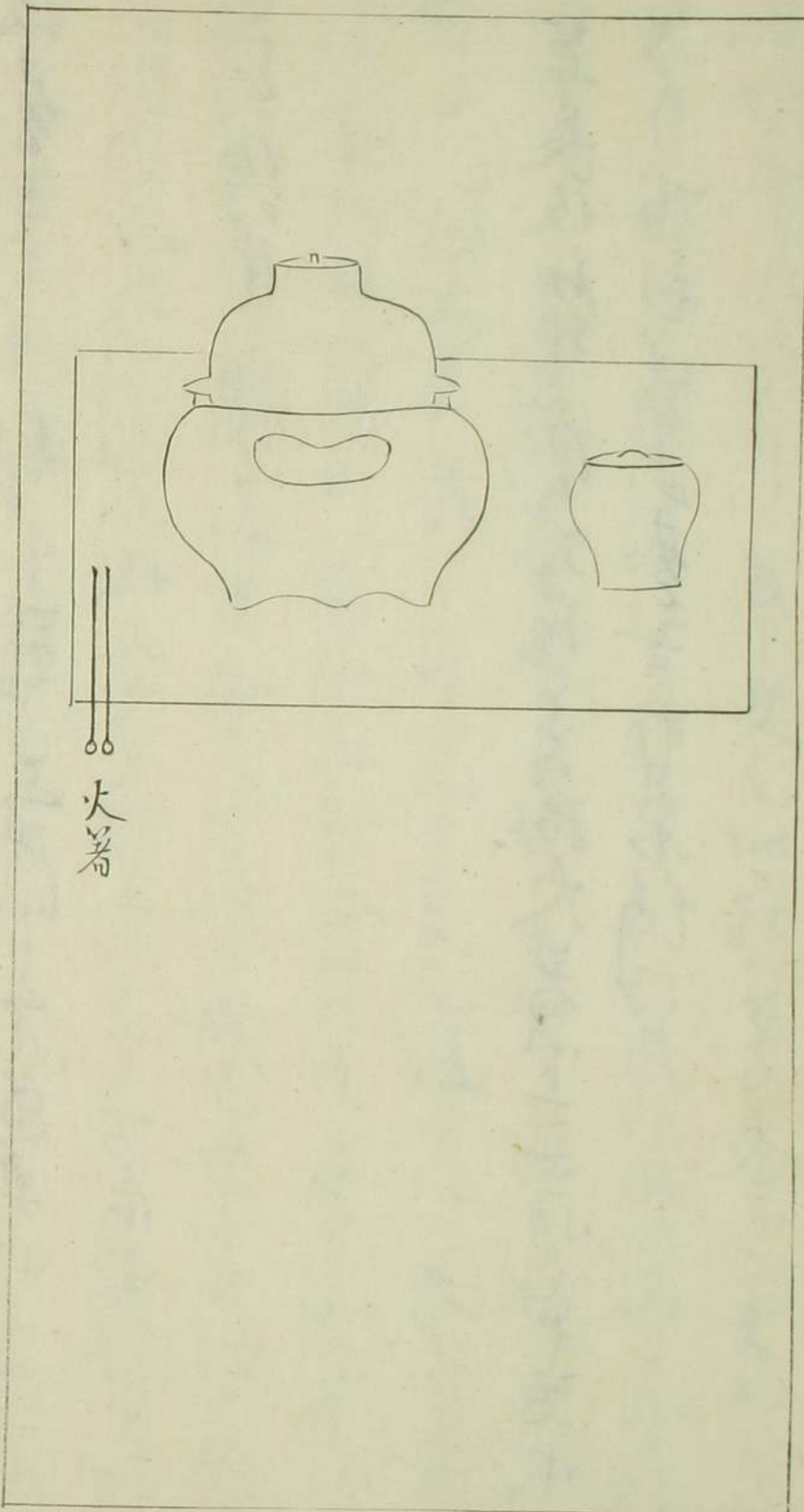


風が釜を水指の中に入れて火を点け茶を点す。茶の湯が沸いたら、茶碗に茶を注ぎ、茶杓で茶を飲む。茶碗の湯が冷めたら、茶碗に湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。茶碗の湯が冷めたら、茶碗に湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。茶碗の湯が冷めたら、茶碗に湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。

長板一板に茶碗を置き、茶碗の湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。茶碗の湯が冷めたら、茶碗に湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。茶碗の湯が冷めたら、茶碗に湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。

草長板の中に入れて火を点け茶を点す。茶碗に茶を注ぎ、茶杓で茶を飲む。茶碗の湯が冷めたら、茶碗に湯を注ぎ、茶碗を洗い、茶杓を洗う。

並長夜後休長盆小茶合斗一毫目水皮の運ひは是れ  
 有世可ほ中し之は也但天目之在合斗の四柱也



右の辰風が意子真行草七板の意近茶道具書記に古末七  
 長盆斗の用中の四方盆銘鶴利休時代より用中末に

炬子乃父小妻お記の昔の世敷八尋女六尋女四五半  
少くも子長夜いれ取りの利休大目梅曲の世おに長夜  
用中しは子一尋小用不中しは子一尋小用不中しは子一尋小  
書記しは長夜子四下夜中しは子四下夜中しは子四下夜中  
長夜幅廣くも子長くも子長くも子長くも子長くも子長くも  
元寸法別小書記紹鴻とい長夜あり有之の生玉三仁とい者  
より小板細く用未の昔の世敷いふ道草井原に  
風越細小有之の昔の世敷いふ道草井原に  
直し中しは子一尋小用不中しは子一尋小用不中しは子一尋小

貞要集一ノ上終

